

平成 31 年度 国語科

教科	国語	科目	現代文B (前期) 国語演習 (後期)	単位数	前期 1 後期 2(文)1(理)	年次	3 年次
校内名称	現代文 (前期) 現代文、記述国語 (後期)			ユニット数	前期 1.5 後期 2.5(文) 1.5(理)	必選別	必修
使用教科書	精選「現代文B」 (筑摩書房)						
副教材等	錬成現代文 (尚文出版)、新総合図説国語 (東京書籍)、頻出漢字マスター3000 (尚文出版) 読解を深める現代文単語 (桐原書店)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

現代文の授業では、近現代の様々な文章からそれぞれの時代の持つ雰囲気や人々の考え方・感じ方を読みとり味わっていく。大切なことは、授業中に主体的に考え、その考えをまとめ、適切な表現で他者に伝えることである。時には批判的な眼を持つことも必要であるし、時には筆者の考えに賛同したり、新たな発見があったりもするだろう。最終的には、授業で学んだことを基盤にしてものごとを多角的にとらえる能力を身につけ、自分なりの視点を培っていくことが、現代文を学ぶ真の目標と言えるだろう。

2 学習の到達目標

- ・ 目的や場に応じた的確に文章の内容や構成・筆者の主張や登場人物の心情を理解できる。
- ・ 言語感覚を磨き、論理的な思考力、豊かな想像力を場面に応じて活用することができる。
- ・ 目的や場にふさわしい語句を選んで、適切に自分の思いや考えを表現することができる。
- ・ ものごとを自分なりの視点で捉え、それを論理的にまとめ人に伝えることができる。
- ・ 自分と違った人の考え方を受容したうえで、合理的に賛同したり批判したりできる。
- ・ 日本文化とともに他文化を尊重する態度を育てている。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 話す・聞く能力	c: 書く能力	d: 読む能力	e: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
評 価 方 法	行動の観察 記述の点検 定期考査	授業での発言 記述の点検	記述の確認及び分析 (感想用紙) 定期考査	記述の確認及び分析 (問題集) 定期考査	行動の観察 記述の確認 (問題集) 定期考査

評価点の割合は、考査点90%程度、平常点10%程度です。

4 学習の活動

学期	単元	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法	副読本
			a	b	c	d	e			
前期中間 考查まで	評論	【評論】(前田英樹) 「 絵画の二十世紀 」	○		○	◎	○	d:文章の構成や、段落相互の関係を読み取りながら、筆者の主張や内容をとらえる。	acde 行動の観察と確認・定期考查	現代文単語 p.92～p.146
	小説	【小説】(魯迅) 「 藤野先生 」	○	○	○	◎	○	c:適切な表現で感想を書く d:登場人物の人物像、心情の推移を的確に把握する。	abcde 行動の観察と確認・記述の確認及び定期考查	漢字マスター p.124～ p.159 錬成現代文 23～26
	自習	「『 自然を守る 』ということ」 (樫木野衣)				◎		d:筆者の主張や内容をとらえる。	d 定期考查	
前期期末 考查まで	評論	【評論】(中沢新一) 「 Not I, Not I... 」 【小説】(森鷗外) 「 舞姫 」	○	○	○	◎	○	d:評論では、文章の構成や、段落相互の関係を読み取り、筆者の主張や内容をとらえる。小説では、登場人物の人物像、心情の推移を的確に把握する。	abcde 行動の観察と確認及び定期考查	現代文単語 p148～p218 漢字マスター p160～p172
	自習	「 家 」(作:アゴタ・クリストフ 訳:堀茂樹) 「 陰翳礼賛 」(谷崎純一郎)				◎		d:筆者の主張や内容をとらえる。	d 定期考查	錬成現代文 27～30
後期中間 考查まで	評論	【評論】(小林秀雄) 「 無常ということ 」 (大澤真幸) 「 リスク社会とその希望 」	○		○	◎	○	d:文章の構成や、段落相互の関係を読み取りながら、筆者の主張や内容をとらえる。	acde 行動の観察と確認・記述の確認及び定期考查	現代文単語 p.220～p.293 漢字マスター p.174～p.195
	自習	「 沈黙 」(村上春樹)	○		○	◎	○	d:登場人物の人物像、心情の推移を的確に把握する。	acde 行動の観察と確認・記述の確認及び定期考查	
後期期末 考查まで		・入試対策演習	○		○	◎	○			

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:話す・聞く能力 c:書く能力 d:読む能力 e:知識・理解

※ 評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて○印を、また、その単元で主として扱う国語の領域(「話す・聞く」「書く」「読む」)に関わる観点には◎を付している。

平成 3 1 年度 国語科

教科	国語	科目	古典B	単位数	2	年次	3年
校内名称	選択古典			ユニット数	1.5	必選別	選択
使用教科書	精選古典B（三省堂）。プリント教材。						
副教材等	古文単語325（尚文出版）、新明説漢文（尚文出版）、新総合図説国語（東京書籍）						

1、担当者からのメッセージ

効率とデジタル化される目の先の結果だけが重視される政治や社会の風潮の中で、時代を経ても価値が変わらない古典というものの面白さを伝えたい。立場上、入試に対応できる力の養成を第一に掲げておくが、受験で点が取ればOKで、入試が済めば古典など二度と読みたくない、などという生徒を育てるための講座を目指しているわけではないので、そのつもりでいてほしい。

2、学習の到達目標

センター試験、個別試験に対応できる古文読解力、漢文読解力の養成。
豊穡な古典の世界の面白さに触れたという実感を持つこと。

3、学習評価（評価基準と評価方法）

観点	a：関心・意欲・態度	b：話す・聞く能力	c：書く能力	d：読む能力	e：知識・理解
観 点 の 趣 旨	古文、漢文の文章に関心を持ち、意欲的に自ら調べて読解しようとしている。	古文、漢文の文章を通して感じたこと、考えたことを授業中に発言したり、クラスメートの考えを聞いたりすることによって自分の感情、考えを豊かにすることができる。	予習をする段階で古典を書き写したり、現代語訳をしたりすることで文章を身体的に感じ、先人の考え、感情を書き留め、とめる過程でそれらを整理することができる。	古文、漢文の文章を現代語に置き換えて理解することができる。また、文章そのものを読み、その論理をつかんだり、文章の流れを感じ取ることができる。	古文、漢文特有の語句の意味や使い方を副読本等を読んで理解し、知識を蓄えて読解に活かすことができる。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・授業態度 ・提出物 ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・授業態度 ・提出物 ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・授業態度 ・提出物 ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・授業態度 ・提出物 ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・授業態度 ・提出物 ・小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
評価点の割合は、考査点90%程度、平常点10%程度です。

4、学習の活動

期間	学習内容	主な評価の観点					評価の基準	評価の方法
		a	b	c	d	e		
前期 中期 間 考 査 ま で	<p>【古文】</p> <p>センター試験過去問題 (本試験) 6年分 古文単語 3 2 5</p> <p>【漢文】</p> <p>センター試験過去問題 (本試験) 6年分 新明説漢文</p> <p>**ここまではあくまでも、基礎力の養成。</p>	○	○	◎	◎	◎	<p>古文単語、漢文句形の 定着度を小テストで確認するとともに、過去のセンター試験の問題を解説しながら、基本的な文法力、単語力、句形の理解の定着をはかるので、中間考査と小テストの結果を以って評価する。</p> <p>定期考査は既に扱った文章での大問が3、初見の文章を使った大問1問で構成する。初見の文章で、読解力の定着度を測る。</p>	定期テスト 小テスト
前期 期末 考 査 ま で	<p>【古文・漢文】</p> <p>センター試験の過去問題のうち、追試験の問題を扱うことで、少しレベルを上げる。読解力の定着度を見て、中間以降、適当な時期に、個別入試の問題に取り組み始め、記述式問題に対応できる記述力を養う。</p>	○	○	◎	◎	◎	<p>古文単語、漢文句形とも、定着度を見て小テストを実施する。</p> <p>定期考査は既に扱った文章での大問が3問、初見の文章を使った大問1問で構成する。初見の文章で、読解力の定着度を測る。</p>	定期テスト 小テスト
後 期 中 間 考 査 ま で	<p>【古文・漢文】</p> <p>過去の個別入試問題に取り組み、記述問題に対応する力の養成を図る。</p> <p>11月後半から、センター試験型問題、過去のセンター試験問題(追試験)に切り替える。</p>	○	○	◎	◎	◎	<p>定期考査は初見の文章を使った大問を2問に増やして構成する。初見の文章で、読解力の充実を図る。入試に向けて、制限時間を厳密にし、時間配分を考慮した解き方を工夫する。</p>	定期テスト 小テスト
後 期 末 考 査 ま で	<p>【古文・漢文】</p> <p>センター試験までは、過去のセンター試験問題(追試験)を扱い、それ以降は、個別試験対策に切り替える。</p>	○	○	○	◎	◎		小テスト

*表中の観点について a : 関心・意欲・態度 b : 話す・聞く能力 c : 書く能力

d : 読む能力 e : 知識・理解

*評価の観点のうち、「関心・意欲・態度」と「話す・聞く能力」については一通り扱うので○を、「書く能力」「読む能力」「知識・理解」については特に重点的に扱うので◎を付してある。

平成31年度 国語科

教科	国語	科目	古典講読（前期） 国語演習（後期）	単位数	文系前期2/ 後期1 理系1	年次	3年
校内名称	古典					必選別	必修
使用教科書	精選古典B（三省堂）			ユニット数	文系前期3.0/後期2.0	理系1.5	
副教材等	古文単語325（尚文出版）、新明説漢文（尚文出版）、新総合図説（東京書籍） ニューグレード読解古文レベル3、同漢文3（桐原書店）、古典速読トレーニング標準（数研出版部）						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

<p>古典は先人からのメッセージである。そのメッセージをいかに受け取るか、個々人によって様々だと考えられるが、メッセージを受け取るにあたって不可欠なのが古典を読解する力である。読解に際しては、古文単語の知識や古文常識、漢文句形の知識が欠かせない。授業の予習や宿題で文章を読むにあたって、わからないことをそのままにしておくのではなく、自分自身で調べて探究する姿勢を常日頃からもって学習に臨んでほしい。そうした自発的で地道な学習によってこそ、先人の思いや考えに触れることができ、そのメッセージを自分のものとして生きたものにすることができるだろう。</p>

2 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・古文、漢文の概要を初見でつかむことができる。 ・古文、漢文の文章を通して読解した先人の考えや感情を自分のものと照らし合わせて考えられる。 ・古文、漢文の文章を読解し、連綿と読み継がれてきた伝統的な文化に対する理解を深められる。
--

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 話す・聞く能力	c: 書く能力	d: 読む能力	e: 知識・理解
観点の趣旨	古文、漢文の文章に関心を持ち、意欲的に自ら調べて読解しようとしている。	古文、漢文の文章を通して感じたこと、考えたことを授業中に発言したり、クラスメートの考えを聞いたりすることによって自分の感情、考えを豊かにすることができる。	予習をする段階で古典を書き写したり、現代語訳をしたりすることで文章を身体的に感じ、先人の考え、感情を書いてまとめる過程でそれらを整理することができる。	古文、漢文の文章を現代語に置き換えて理解することができる。また、文章そのものを読み、その論理をつかんだり、文章の流れを感じ取ることができる。	古文、漢文特有の語句の意味や用い方を副読本等を読んで理解し、知識を蓄えて読解に活かすことができる。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・授業態度 ・提出物 ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・授業態度 ・提出物 ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・授業態度 ・提出物 ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・授業態度 ・提出物 ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・授業態度 ・提出物 ・小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにあわせて評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。評価点の割合は、考査点90%程度、平常点10%程度です。

4 学習の活動

期間	単元名	学習内容 (☆は文系のみ学習)	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
前期中間 調査まで	物語・日記／ 思想・小説	【古文】 蜻蛉日記「うつろひたる菊」 枕草子「二月つごもりごろに」 ☆徒然草「五月五日、 賀茂の競べ馬を」 ☆無名草子「文」 【漢文】 陶潜「桃花源記」 ☆屈原「漁父辞」 【問題集】 「ニューグレート」古文3」16～20 「ニューグレート」漢文3」6～10	○	○	○	◎	○	a : 授業に意欲的に参加し、提出物を期限内に提出しようとしている。 b : 授業中に積極的に考えて発言をしたり、クラス内で出た意見を傾聴し自分の考えを豊かにしていこうとしている。 c : 予習を行わからなかったところを把握して授業を受け、授業中は文章の内容を把握する上での要点や読解する上で理解しておかなければならない文法事項を整理して書けている。 d : 文章を読解していく過程で、古文においては物語の展開のおもしろさや、心情の機微を感じ取り、漢文においては論理の展開、人としてのあり方を深く考察することができている。 e : 単語・文法事項の意味、句形の用法を確認し、文章の読解に活かすことができている。	a d e : 定期考査 a ~ e : 授業態度 小テスト a e : 提出物
前期期末 調査まで	物語・歌論／ 文章・思想	【古文】 源氏物語「廃院の怪」 ☆去来抄 【漢文】 孟榮「人面桃花」 ☆韓非子「聖人不期修古」 【問題集】 「ニューグレート」古文3」21～25 「ニューグレート」漢文3」16～20	○	○	○	◎	○	a : 上記 a に同じ b : 上記 b に同じ c : 上記 c に同じ d : 文章を読解していく過程で、古文においては散文、和歌を通して感情や情景の豊かさを感じ取り、漢文においては人間の生き方、理想を求めるあり方を深く考察することができている。 e : 上記 e に同じ	a d e : 定期考査 a ~ e : 授業態度 小テスト a e : 提出物
後期中間 調査まで	物語・評論／ 詩	【古文】 和泉式部日記「夢よりもはかな き世の中を」 ☆大鏡「肝試し」 ☆紫式部日記「和泉式部と 清少納言」 【漢文】 史記「廉頗と藺相如」 【問題集】 「古典速読トレーニング」1～24	○	○	○	◎	○	a : 上記 a に同じ b : 上記 b に同じ c : 上記 c に同じ d : 文章を読解していく過程で、古文においては心情の機微を読み取り、物語作者に対する論評から当時の物語受容について考える。漢文においては日本の文学に大きな影響をもたらした白居易の文学作品の洗練された表現を味わい、歴史の表現法について考えることができる。 e : 上記 e に同じ	a ~ e : 授業態度 a e : 提出物
後期期末 調査まで		センター試験・記述試験対策	○			◎	○	a : 入試に向けて今までの既習事項を確認し、入試問題を解くことでその知識を定着させようとしている。問題に対し、自ら考えて解答を導こうと努力している。 d : 入試問題を読むことに慣れ、時間内に問題を解くことができる。 e : 上記 e に同じ	a d e : 授業態度

※ 表中の観点について a : 関心・意欲・態度 b : 話す・聞く能力 c : 書く能力
d : 読む能力 e : 知識・理解

※ 評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて○印を、また、その単元で主として扱う国語の領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）に関わる観点には◎を付している。

平成31年度 地理歴史科

教科	地理歴史	科目	地理B	単位数	4単位	年次	3年
校内名称	地理B			ユニット数	2.5	必選別	選択
使用教科書	「新編 詳解地理B」 (二宮書店)						
副教材等	新詳高等地図 (帝国書院)、新詳地理資料 COMPLETE2018 (帝国書院)、 新地理要点ノート (啓隆社)、データブック・オブ・ザ・ワールド 2018 (二宮書店) 地理の整理と演習 2019 (とうほう)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

地理を一言で言うと、「地表空間における特定地域の自然、人文の諸事情を総合的に把握し、地域的特色を明らかにしようとする学問」です。
もう少し簡単に言うと「広い地球上で、なぜ、そこにあるのか?なぜ、そこで起きているのか?」を考える学問です。「地理は暗記もの」と思っている人も多いと思いますが、実は、「ものごとが起きるしくみ」を学ぶ教科です。もちろん、対象は地表なので、地図を使うことは必須です。地図で確認しながら自分の頭の中に自分だけのマップを作ってみましょう。

2 学習の到達目標

世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

3 学習評価 (評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追求し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとしている。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追求の方法を理解し、その知識を身につけている。
評 価 方 法	授業態度 (積極的な参加、地図帳の活用度など) 映像・文献に関する感想文・レポートの提出	授業態度 (質問に対する答えなど) 定期考査 映像・文献に関する感想文・レポートの内容	授業態度 (地図帳・データブックの活用度など) 定期考査	授業態度 (授業での発言など) 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
評価点の割合は、考査点90%程度、平常点10%程度です。

平成31年度 地理歴史科

教科	地歴	科目	(学)世界史探究	単位数	3単位	年次	3年次
校内名称	世界史探究			ユニット数	2.5	必選別	選
使用教科書	世界史B (実教出版)						
副教材等	最新世界史図説 タペストリー						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

世界史も3年生になると、16世紀に入りヨーロッパとアジアが交錯し始めます。陸上での覇権はアジアが、その中でも特に中国が突出した力を見せていますが、ヨーロッパはアジアが気づかない間に海運力を活用してアフリカや新大陸で経済力を溜め込み、18世紀以降にはその力をアジアに対しても、主に海から経済的な支配を浸透させてゆきます。その延長線上に現代世界の諸問題が横たわっていることを学びます。

2 学習の到達目標

アジアとヨーロッパを公平な目で分析しつつ、なぜ、ヨーロッパは現在の指導的地位を獲得できたのか。逆に、アジアはなぜ大国の地位から滑り落ちたのかを知る。加えて、日本がそのような流れの中でどのような役割を演じたのか、どのような役割を果たすべきだったのかを考察する。

3 学習評価 (評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	通史的な内容に加えて解説する、世界史を縦断的・横断的に見渡す視点が、世界史理解において重要であることを知る。	歴史的事件を生んだ背景・因果関係を考察する。	歴史的な資料・統計・証言を考察の根拠として扱う。	一国史の概要に加え、世界史を縦断的・横断的に見渡す際の、歴史の「法則」といえるようなひとつの形、同時代に共通して発生する事件とその背景を知る。
評 価 方 法	授業中の取り組み姿勢 授業中の発問に対する反応や答える内容	定期考査 授業中の取り組み姿勢	定期考査 授業中の取り組み姿勢	定期考査 授業中の取り組み姿勢
<p>上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。評価点の割合は、考査点95%程度、平常点5%程度です。</p>				

4 学習の活動

期間	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期 中間 期末 まで	激化する覇権競争・陸の帝国	ヨーロッパの主権国家 激化する覇権競争 18世紀の世界 17・18世紀の文化の特徴 西アジアの帝国 南アジアの帝国 東アジアの帝国 東南アジア世界					a : ヨーロッパの覇権国がどのよう にして決まっていたかを学ぶこ とで、現在のヨーロッパへの関心 が高まっているか。 b : 授業中の発問 c : 奴隷貿易数統計の読み取り c : アジアの帝国がGDPの比較 でもヨーロッパに勝っている	定期考査 授業中の態度 発問への反応
前期 期末 まで	環大西洋革命とイギリス	二重革命とは何か 環大西洋革命とは何か イギリスの産業革命 ヨーロッパの産業革命 南北アメリカの革命 フランス革命とナポレオン ウィーン体制とその崩壊 19世紀後半の欧米 19世紀の文化					a : 二重革命こそが欧米を現在の 地位に押し上げた要因であり、そ の源流が17・18世紀に重視され た「理性」だったことに気づく。 B : 授業中の発問 c : 産業革命の達成度合いを鉄道 敷設距離から読み取る。	定期考査 授業中の態度 発問への反応
後期 中間 期末 まで	世界分割と現代世界の 問題	帝国主義とは何か ヨーロッパの帝国主義 アメリカの帝国主義 西アジアの改革 アフリカ分割 インドの植民地化 東南アジアの植民地化 中国の誕生 二つの大戦					a : 帝国主義の広がりとともに近 代化が進んでゆくことに気づく。 B : 近代化に取り組んだアジアや アフリカがなぜ、植民地になっ てゆくのかを授業中の発問から考 える。 C : ヨーロッパの国の中で植民地 を多く持った国と持たなかった国 の経済力の差を読み取る	定期考査 授業中の態度 発問への反応
後期 期末 まで	第二次大戦後の世界	戦後世界の展開 20世紀の文化					a : 戦後世界がお互いに絡み合い ながら同時進行で進んでゆくさま を体感する b : 中国の社会主義がアジア各地 のリーダーに与えた影響を発問 から考えられるか d : 戦後の類似した事件をきちん と分別して整理できているか	定期考査 授業中の態度 発問への反応

※ 表中の観点について a : 関心・意欲・態度 b : 思考・判断・表現
c : 技能 d : 知識・理解

※ 原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。

平成31年度 地理歴史科 (学)日本史—近世までの潮流—

教科	地理歴史	科目	(学)日本史 —近世までの潮流—	単位数	4単位	年次	3年
校内名称	日本史			ユニット数	2.5	必選別	選択
使用教科書	「日本史B」 (実教出版)						
副教材等	図説日本史通覧(帝国書院)・新編史料日本史(とうほう)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

歴史を学ぶということは、過去を知るということである。しかし、それはただ単に知るだけでは意味がない。当時の人がなぜそのように行動したのか、なぜそのような組織や制度をつくったのか、歴史的な背景・関連を知ることが大切である。現代の価値観をもって過去のできごとを裁断するのではなく、当時の合理性を把握するのである。そうした見方を持つことは、私たちが「今」を客観的に見ることにつながる。歴史学習において、「疑問の心」や「好奇心」を持つことは非常に大切である。疑問や好奇心を持ったなら、関連する本を読んだり、博物館や史跡の見学をしてほしい。

日々の授業においても疑問の心や好奇心を忘れずにいてほしい。授業中にプリントを完成させるだけでは、ほんとうの学びにはつながらない。まず、しっかりと教師の話聞く。教師の話聞いて、大切と感じたり、疑問に思ったことは、アンダーラインを引いたり、欄外に書き留めておこう。疑問に思ったことは質問しよう。毎日の学習事項を時代の流れの中に位置づけることが大切なので、折にふれ、教科書や資料集の関連ページを読み直しストーリーとして把握しよう。そうすることで、また疑問の心や好奇心がわきおこり、歴史学習のモチベーションが高まるであろう。

2 学習の到達目標

日本の中世から近世に至る歴史の展開を、世界史的視野に立って、政治、経済、社会、文化などの歴史を構成する要素を総合した幅広い見方で把握し、日本の文化や伝統の特色についての認識を深めるとともに、歴史的思考力、国際社会に生きる資質を養う。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	日本史に対する関心を高め、意欲的に学習に取り組んでいる。	歴史の事件を点で捉えるのではなく、線・面で捉える思考をし、表現する。	文字史料や図表などの歴史資料を読み取り、事象の背景や関連性を読み取る。	日本史についての基本的な知識を身につけ、地理的な条件や世界の歴史と関連付けて理解する。
評 価 方 法	授業態度(積極的に参加しているかなど)	授業態度(発問に対する答えなど) 定期考査	授業態度(発問に対する答えなど) 定期考査	授業での発言 定期考査
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、前・後期末に5段階の評定にまとめます。評価点の割合は、定期考査点95%程度、平常点5%程度です。				

4 学習の活動

学期	単元	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
3年 前期 末まで	中世	○中世社会の成立と文化の新機運 ・荘園公領制と武士団 ・院政と平氏政権 ・鎌倉幕府の成立 ・武家政治の展開 ・鎌倉武士と農村生活 ・蒙古襲来と幕府の衰退 ・鎌倉文化 ○武家社会の展開と室町文化 ・南北朝の動乱 ・室町幕府の政治と外交 ・惣村の発展と応仁の乱 ・室町文化 ・戦国大名の領国経営	○	○	○	○	a: 受身ではなく、積極的な態度で授業に臨み、すすんで発言する。ノートをとる際に、ただ板書をそのまま写すのではなく、自分なりに工夫している。 b: 古代からの継続性と中世社会の独自性を考える。 c: 事象の内容や背景を、歴史資料から読み取る。 d: 基本的な歴史用語を記憶し、それを他の事象と関連付けて、歴史の流れを理解している。	授業態度 定期考査
3年 後期 末まで	近世	○幕藩体制の展開と近世の文化 ・ヨーロッパ人の来航 ・織豊政権 ・桃山文化 ・幕藩体制の成立 ・鎖国 ・近世の生活と文化 ○幕藩体制の動揺と文化の成熟 ・幕府政治の転換 ・経済の発展 ・学芸の発展と元禄文化 ・幕藩体制の動揺と幕政の改革 ・欧米列強の接近と天保の改革 ・江戸中・後期の文化	○	○	○	○	a: 受身ではなく、積極的な態度で授業に臨み、すすんで発言する。ノートをとる際に、ただ板書をそのまま写すのではなく、自分なりに工夫している。 b: 中世からの継続性と近世社会の独自性を考える。 c: 事象の内容や背景を、歴史資料から読み取る。 d: 基本的な歴史用語を記憶し、それを他の事象と関連付けて、歴史の流れを理解している。	授業態度 定期考査

※ 表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現
 c: 資料活用の技能 d: 知識・理解

・原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○を付けている。

平成30年度 公民科

教科	公民	科目	倫理	単位数	2単位	年次	3年
校内名称	倫理／選択倫理（文系）・倫理政経（理系）			ユニット数	文系1.5 理系1.0	必選別	選
使用教科書	倫理・倫理政経：高等学校 改訂版 倫理／選択倫理：高等学校 倫理（第一学習社）						
副教材等	最新倫理資料集（第一学習社）						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

まず、考えること。考えることに人間の本質がある、といわれる。ただ単に考えるのではなく、何が問題であり、その問いを解決するためにはどうしなければならないか、先行する思想家はどのように考えたのか、様々な問いを論理的整合性を持って解決しようと心がけてください。

暗記科目と考えて記憶に精を出すのではなく、様々な問いに疑問を持つようにしてください。自ら考えようとする姿勢が、後になると理解につながります。

授業で板書を写し、評価をもらうことが勉強の（人生の）目的ではありません。何が重要なのかを見だし、自分が「理解するために」ノートを作り、自分だけの参考書を作ることが勉強であり、それが結果としてセンター試験でも生きてきます。ポイントは、人物とキーワードを結びつけること。

たくさん本を読みましょう。新聞も読みましょう。いろんな方法で「感性」を磨いてください。センター試験でも読解力が問われるものが必ずあります。

2 学習の到達目標

人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、人間としてのあり方・生き方についての理解と思索を深めるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある人間として必要な能力と態度とを育む。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成について関心を高め、人格の形成と他者と共に生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲を持つとともに、これらに関わる先哲の思想を探究し、人間としてのあり方、生き方について自覚を深めようとする。	他者と共に生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、時代背景や先哲の思想を参考にしながら、多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	先哲の著作や、様々な諸資料を読み、有用な情報を適切に選択して、これらを他者と共に生きる主体としての自己の確立に資するよう活用している。	青年期における自己形成や人間としてのあり方生き方などに関わる先哲の思想などを、他者と共に生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格形成に生かす知識として身につけている。
評 価 方 法	ワークシート レポート 授業の参加態度	定期考査 ワークシート レポート	定期考査 ワークシート レポート	定期考査
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。評価点の割合は、考査点95%程度、平常点5%程度です。				

4 学習の活動

倫理	理系倫政	選択倫理	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
2年後期で実施済み	2年後期で実施済み	前期中間審査まで	国際社会に生きる日本人としての自覚	(これ以前は1年次に実施)					a. 「論語」などに見られる思想を手がかりとして人間としての生き方、共同体のあり方を考えようとしている。	ワークシート 定期審査
				中国の思想	○			○	d. 仁や礼などから人間についての見方や望ましい人間関係による社会生活のあり方などを理解し、人格の形成に生かす知識として身につけている。	
				日本の風土と伝統	○				a. 日本の伝統的な価値観について関心を持ち、それらを手がかりに日本の思想の展開について探究しようとしている。	ワークシート 定期審査
				外来思想の受容		○	○	○	b. 仏教思想間、朱子学と古学など、様々な思想を、時代背景も踏まえて比較しながら考察している。 c. 先人の思想に関わる資料から、その思想の特徴を読み取っている。 d. 仏教や儒学、とりわけ朱子学がどのように日本人の意識や価値観に影響を与えたかを理解し、次の「庶民の思想」を理解するためにも用いている。	
前期中間審査まで	前期中間審査まで	国際社会に生きる日本人としての自覚	町人意識の目覚めと庶民思想	○	○		○	a. 江戸時代や明治時代という時代を踏まえ、思想の多様性に関心を持ってそれらの思想を探究しようとしている。 b. 町人の思想や国学が提唱する人間性を尊重する生き方について、儒学などとの関わりも踏まえて多面的に考察している。 d. 石田梅岩の心学が企業の社会的責任に通じる思想であることなど、取り上げる思想はいずれも現代の社会に通じる思想であることを理解し、自分の生き方に関わる知識として身につけている。	ワークシート 定期審査 レポート	
			人間の尊厳				○	○	b. 設定された時代に登場した新しい思想と現代に生きる人間の倫理観について、関連づけて考察できている。	ワークシート 定期審査 レポート
			近代の科学革命と自然観		○			○	c. ルネサンス期の絵画や文学作品などの諸資料を、考え方を深めるために適切に活用している。 d. 自然と人間との関わり、科学技術の発達の意義や問題点を理解し、人格の形成に生かす知識として身につけている。	
		現代に生きる人間の倫理	自由で平等な社会の実現		○		○	a. カントやヘーゲルをはじめとする哲学者の思想に触れて倫理的な見方や考え方について関心が高まっている。 b. カントの動機主義とベンサムの結果主義の比較などの様々な思想を踏まえて多面的なものを見方ができるようになっている。		

前期中間 考查まで	登 まで					d. 現代においても存在感のある大哲学者の思想を正しく理解し、人格の形成に生かす知識として、一般教養として世界で通用する知識を身につけている。		
		人間性の回復と主体性の確立	○		○	○	a. 社会主義や実存主義の哲学考察した問題が、現代に生きる私たちも直面する、大衆社会における個という問題であることを認識し、倫理的な課題について関心を高めている。 c. 先哲の考え方や生き方に関する諸資料を適切に読み取っている。 d. 実存主義の哲学などを通じて、大衆社会における人間性について考察し、自らの人格の形成に生かす知識として身につけている。	ワークシート 定期考查
前期期末 考查まで	現代に 生きる 人間の 倫理	現代の思想と人間像		○		○	b. 二度の大戦を経て人間や生き方に対する見方がどう変化したか、新たな哲学上の考え方について、多面的・多角的に考察している。 d. 理性に信頼をおく近代的な人間像を問い直す現代の哲学を正しく理解し、自己や社会全体の幸福の実現のために生かす知識として身につけている。	ワークシート 定期考查
		生命への畏敬と社会参加	○		○		a. ガンディーやマザーテレサなどの生きかたを通じて、現代に生きる自己の課題を主体的に考えようとしている。 c. 現代に生きる人間が直面する諸課題に関する資料を、さまざまなメディアを通して収集して活用している。	ワークシート レポート
前期期末 考查まで	国際社会に 生きる 日本人 としての 自覚	西洋思想との出会い	○	○			a. 明治以降日本に流入した西洋思想に対してさまざまな関わりがあることに関心を持ち、それらの思想間の関係について考察しようとしている。 b. 外来思想の受容やその影響を受けた思想および社会に与えた影響について、江戸時代のさまざまな思想や西洋思想との関わりも踏まえて多面的に考察している。	
		青年期の課題 自己の探究 現代の青年期	○			○	a. 青年期の意義と課題について、豊かな自己形成に向けて、自らを省みながら探究しようとしている。 b. 自らの経験を振り返ることを通じて青年期にある自己の生き方に関わる課題を見だし、他者、社会や自然との関わりなど広い視野に立って主体的かつ公正に判断している。 c. 青年期の意義と課題に関する諸資料を適切に読み取り、青年期に関わる見方、考え方や、先哲の思想を十分に活用している。 d. 自己確立の基礎を培う時期としての青年期の積極的な意義を理解し、青年期に関わる見方や考え方を、自己の人格形成に生かす知識として身につけている。	ワークシート レポート
後期	後期	生命の問題と倫理課題	○	○	○		a. 現代社会において、様々な倫理的な問題が生じていることに関心を持ち、それらを先哲の思想も援用しながら、自己に関わる問題として考えている。	ワークシート レポート
		現代の諸						
後								

平成31年度 公民科

教科	公民	科目	政治・経済	単位数	2単位	年次	3年
校内名称	政治経済／選択政経（文系） 倫理政経（理系）			ユニット数	1.5	必選別	選
使用教科書	政治・経済（数研出版）						
副教材等	政治・経済資料集2019（清水書院） 政治・経済整理ノート（数研出版）						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

1年の「現代社会」、2年後期の政治分野に続いて、3年からは経済分野に入ります。経済は「少し難しい」と感じる人も多いようですが、経済は現実の社会で実際に行われている活動であり、日々の日常生活にも関係のあることです。「政治経済」すべてに共通していることですが、現実の社会に興味・関心を持って、さまざまな情報を得ることが学習を容易にする近道です。また、現在の日本では、グローバル化が急速に進んでいます。国際経済にも苦手意識を持つことなく、積極的に学習してください。

ノートの空欄を埋めることだけが授業を受ける目的ではありません。社会に出てからも使える知識・感性を身につけるために、授業が行われているということを踏まえて授業を受けてください。もちろん1月の大学入試センター試験で高得点を目ざすことも目的の一つにはなるでしょう。

現実の社会で実際に起こっていることを扱う科目です。まずは、できるだけ新聞を読み、テレビのニュースを定期的に見て、インターネットで検索しましょう。政治と経済は日々変化しています。多くの情報に接することが、最終的にセンター試験でも役に立ちます。

なお、選択政経を受講する生徒は、政治分野については通常授業では扱わないので、夏季休暇中に行われる補講を必ず受講して補うようにして下さい。

2 学習の到達目標

人間の尊重と科学的な探求の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに、自ら人間としてのあり方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 資料活用の技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	現代の政治・経済・国際経済・国際政治に対する関心を高め、自ら意欲的にさまざまな課題について対応や解決策を追求する。 それとともに、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について、客観的に考察してその実現に向けて努力する。	現代の政治・国際経済・国際政治に関わる事柄から課題を見だし、その本質や特質、望ましい解決のあり方について広い視野に立って多面的・多角的に考察する。 社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代の政治・経済・国際経済・国際政治に関わるさまざまな資料を、マスメディアなどを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	現代の政治・経済・国際経済・国際政治に関する基本的な事項についてその知識を身につけている。 また、それらの本質や特質および動向を捉えられるように、基本的な概念や理論・仕組みを理解する。
評 価 方 法	授業中の取り組み姿勢	定期考査 ワークシート レポート	定期考査 ワークシート レポート	定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。評価点の割合は、考査点95%程度、平常点5%程度です。

4 学習の活動

期間 政経	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期中間 期末 期考査 まで	現代 経済 の しくみ	経済活動の意義と経済体制(歴史的) ・人間と経済活動 ・資本主義経済の発展と変容 ・経済活動の主体 現代経済のしくみ(理論的) ・市場経済のしくみ ・物価の動向 ・国民所得と経済成長 ・財政のしくみと租税 ・金融のしくみと働き	○		○	○	a. さまざまな経済活動や経済理論に対する興味・関心を高めている。 c. 学習した経済理論などを、現実の経済活動に関連づける。 d. 市場経済・財政・金融のしくみなどを理論的に理解する。	ワークシート (自宅学習の課題などを含む) (以下同) 定期考査
前 期 期 末 考 査 ま で	日本 経済 と 福 祉	・戦後日本経済のあゆみ ・中小企業と農業・食料 ・公害防止と環境保全 ・消費者問題と消費者保護 ・労使関係と労働市場 ・少子高齢化と社会保障	○		○	○	a. 日本経済の歴史や現状について、興味や関心を高めている。 c. 中小企業・農業・環境問題・消費者問題・労働問題・社会保障などについて、現状を把握する。 d. 日本経済の歴史や現状についての知識を高め、さまざまな課題を理解する。	ワークシート 定期考査
2 年 次 に 学 習 済 み	民主 政治 と 日 本 国 憲 法	民主政治の基本原理 ・政治と法 ・民主政治のあゆみ ・民主政治の基本原則とその展開 ・政治体制の比較 日本国憲法と基本的人権 ・日本国憲法の基本的性格 ・基本的人権の保障 ・日本国憲法の平和主義 日本の政治機構 ・国会のしくみと役割 ・内閣と行政機構 ・裁判所しくみと人権保障 ・地方自治のしくみと住民自治 政治参加と民主政治の課題 ・戦後政治と政党 ・選挙制度のしくみ ・世論と情報化社会				○	d. 短期間で、政治分野をすべて学習するため、知識の確認が中心となる。	ワークシート 実力考査 確認テスト
後 期 中 間 考 査 ま で	国際 経済 ・ 国際 政治	国際政治の動向 ・貿易と国際収支 ・国際経済のしくみ 国際経済の課題と国際協力 ・地球環境と資源・エネルギー問題 ・発展途上国の経済と国際協力 ・国際経済における日本 国際政治の動向 ・国際社会の特質 ・国際社会と国際法 ・国際社会の組織化 ・戦後国際政治の展開	○		○	○	a. 国際化が進行する中で、国際経済や国際政治に対する興味・関心を高める。 c. 国際化・グローバル化を見据えて、国際社会の情報を積極的に捉えられるようにする。	ワークシート 定期考査
後 期 期 末 考 査 ま で	第3 編 現 代 の 諸 課 題	持続可能な社会の形成を目指して 現代日本の諸課題 少子高齢化と社会保障 雇用と労働をめぐる問題 農業と食糧問題 大規模自然災害とエネルギー問題 国際社会の諸課題 地球環境と資源エネルギー問題 国際経済格差の是正と国際協力 人種・民族問題と地域紛争		○	○		b. これまでの学習してきたことを踏まえて、現代日本や国際社会の諸課題について、その解決に向けて、総合的な観点から考えて、より考察を深化・発展させる。 c. それぞれの諸課題については、対立点を「トレード・オフ」の関係としてとらえるのではなく、解決方法を見つけるためにさまざまな資料を客観的にとらえるようにする。	ワークシート レポート

※ 表中の観点について a : 関心・意欲・態度 b : 思考・判断・表現
c : 技能 d : 知識・理解

※ 原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。

平成31年度 保健体育科

教科	保健体育	科目	体育	単位数	2単位	年次	3年次
校内名称	体育			ユニット数	1.5	必選別	必修
使用教科書	現代高等保健体育（大修館書店）						
副教材等	Active Sports（大修館書店）						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

社会的に健康に関心が高まる一方、体を動かしたり、スポーツをする機会は減少し、二極化しているのが現状である。しかし、一生涯使い続ける体を鍛え、育てる時期は今しかない。この時期にこそ正しい体の動かし方や鍛え方、整え方を身に付け、様々な体力を養っていくことが必要である。また、授業を通して仲間とのコミュニケーション力や共に協力して課題を解決していく力を身に付けることも重要である。更に、より分析的に運動を捉えることで、今まで出来なかった事が出来るようになったり、各種目の本質的な楽しさに触れることで豊かなスポーツライフを築くことが出来るのである。

2 学習の到達目標

各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。1，2年次に学習した内容をもとに、自分達で種目選択・班編成を行い、全員で協力して各種目を安全に楽しく、かつその本質を味わえるような活動を展開していく。その中で各自がリーダーシップを発揮し、運動場面におけるマネジメント力を養っていく。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断	c: 運動の技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	受身の授業ではなく、常に積極的に授業に取り組む事が大切である。出来る出来ないではなく、いかに前向きに取り組むかということである。また、授業に取り組む中で、周囲の仲間の力量や身体の特徴を判断していく事も集団で活動する上では重要である。仲間と協力して、安全にかつ各種目の特性に触れ、運動の楽しさ味わう。公正・協力・責任・参画などの態度を身に付ける。	知識を活用し、技能の向上につなげる。自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組みを工夫できる。運動を継続したり、体力や技能向上のための計画を考えることができる。学習で得た成果を自ら応用・発展させ、生涯にわたって、運動に親しむことができる。	記録や技能向上に挑戦する。運動の合理的な実践を通して、種目特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現するための各領域の運動特性に応じた段階的な技能を身に付ける。仲間と協力して各種目を楽しむ。	運動の技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法を理解する。スポーツの歴史、文化的特性、スポーツとの関わり方について理解する。
評 価 方 法	・出席 ・受講態度 ・レポート 等	・レポート ・体育理論のテスト 等	・技能観察 ・技術テスト ・レポート 等	・レポート ・体育理論のテスト ・技能観察 等
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。評価点の割合は、関心・意欲・態度50%程度、思考・判断・技能・知識50%程度。				

4 学習の活動

期間	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期 中間 考查まで	ネット型・ゴール型	A. バレーボール B. バスケットボール C. サッカー D. ハンドボール 上記4種目から1種目を選択 *各種目に体づくり運動を含む	○	○	○	○	a: 各種目の楽しさや喜びを味わうことができるよう、相手やルールを大切にする。グループでの構成や、チームの作戦などの話し合いに積極的に参加している。 b: 生涯にわたって球技を豊かに実践するための自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。 c: 各種目の特性に応じた技能や技術を身に付けている。また、身に付けた技能を駆使し仲間と連携した試合をおこなえている。 d: 技術の名称や、ルールを理解し、実践しようとしている。	受講態度の観察 レポート 技能観察 テスト
前期 期末 考查まで	水泳 体育理論	・水泳 (クロール、平泳ぎ、背泳ぎ バタフライ) ・体育理論 生涯スポーツの見方・考え方 ライフスタイルに応じたスポーツ	○	○	○	○	a: 水泳の楽しさや喜びを味わう。マナーやルールを大切に、水泳の事故防止に留意し、積極的に自己の泳力向上に取り組んでいる。 b: 生涯にわたって水泳に親しむため、課題に応じた取り組みを自ら考え実践している。 c: 水泳の特性を理解し、効率的な泳法を身に付ける。また、スタートやターンの技術を習得し、スピードにのった泳ぎに繋げている。 d: 技術の名称や、ルールを理解し、実践しようとしている。	受講態度の観察 レポート 技能観察 テスト
後期 期末 考查まで	ベースボール型・ネット型 体育理論	A. ソフトボール B. バドミントン C. 卓球 上記3種目から1種目を選択 *各種目に体づくり運動を含む ・体育理論 日本のスポーツ振興 スポーツと環境	○	○	○	○	a: 各種目の楽しさや喜びを味わうことができるよう、相手やルールを大切にする。グループでの構成や、チームの作戦などの話し合いに積極的に参加している。 b: 生涯にわたって球技を豊かに実践するための自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。 c: 各種目の特性に応じた技能や技術を身に付けている。また、身に付けた技能を駆使し仲間と連携した試合をおこなえている。 d: 技術の名称や、ルールを理解し、実践しようとしている。	受講態度の観察 レポート 技能観察 テスト

※ 表中の観点について a : 関心・意欲・態度 b : 思考・判断 c : 運動の技能 d : 知識・理解

※ 原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。

平成31年度 芸術〔音楽〕

教科	芸術	科目	音楽Ⅱ	単位数	1単位	年次	3年次
使用教科書	高校生の音楽2（教育芸術社）309						
副教材等	なし						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱（合唱を含む）・器楽演奏・創作・鑑賞を柱に学習する。 ・音楽Ⅲは音楽Ⅰをふまえて、各々の選択者の目的に応じて、より音楽的内容を深めることを目標にしている。 ・普通科・文系選択者の中から、選択して1年間（前・後期各1.5ユニットずつ）履修する。 ・選択者へアンケートを実施し、生徒の状況及び実技レベル等により、適切に教材を選択する。 ・音楽系進学希望者については、実技科目指導、聴音・楽典・ソルフェージュの指導も加えて行う。
--

2 学習の到達目標

音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情と音楽文化を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな音楽の能力を高める。
--

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 表現の創意工夫	c: 表現の技能	d: 鑑賞の能力
観 点 の 趣 旨	音楽や音楽文化に関心を持ち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、感受しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように演奏し、表現するか意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表現している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、感受しながら、楽曲や演奏を解釈し、価値を考えたりして、理解を深め、よさや美しさを味わっている。
評 価 方 法	観察 演奏の聴取	観察 演奏の聴取	観察 演奏の聴取	観察 提出物
上に示す観点に基づいて、a:40%、b・c・d:60%の割合で評価し、5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

学期	単元	学習内容	主な評価の観点				題材の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	歌唱	【独唱重唱】 発声法 独唱 二重唱 三重唱	○	○	○		a: 歌曲に関心を持ちそれらの良さを理解しようとしている。 b: 曲の構成を理解し曲の雰囲気を感じ取り、表現を工夫している。 c: 発声や外国語の発音の仕方に留意して、表現の向上を図っている。	観察 演奏の聴取
	器楽	【管楽器】 リコーダー コンサート 【弦楽器】 ギター、箏	○	○	○	○	a 自ら進んで様々な楽器に取り組み、互いに協力して音楽を作り上げている。 b: 楽器の響きや特徴を生かして主体的に演奏している。 c: 音量やフレーズを意識し調和のとれた合奏をしている。 d: 音楽を形づくっている要素を知覚し、特質や雰囲気を感じ取りながら、音楽に対する理解を深め、美しさを感じている。	観察 演奏の聴取
	音楽教養	【音楽史】 【音楽理論】 【自由選択曲】 (各自の進路に適した曲)	○	○	○	○	a: 曲の構成や背景について理解を深めようとしている。 b: 曲の構成を理解し曲の雰囲気を感じ取り、表現を工夫している。 c: 曲に使われているさまざまな楽器の演奏法を理解している。 d: 様々な表現形態を理解し、響きや雰囲気の違いを感じ取っている。	観察 提出物
	鑑賞	【名曲鑑賞】 CD, DVD等 による鑑賞	○			○	a: 曲の背景について理解を深めようとしている。 d: 作曲者や時代による表現の違いを理解しようとしている。	観察 提出物
後期	選択発表	【独唱・奏】 【創作】 各自の進路に適した楽器(歌唱), 創作等に取り組む	○	○	○	○	a: 自ら進んで主体的に演奏に取り組もうとしている。 b: 特徴や役割を理解し、主体的に表現している。 c: 効果や表現方法を考えて、曲の雰囲気を作り出している。 d: 様々な表現形態を理解し、響きや雰囲気の違いを感じ取っている。	観察 演奏の聴取

※ 表中の観点について a: 音楽への関心・意欲・態度 b: 音楽表現の創意工夫
c: 音楽表現の技能 d: 鑑賞の能力

※ 原則として、「歌唱」「器楽」「創作」の分野は a, b, c の3観点で、「鑑賞」の分野は a, c, d の3観点で評価をする。

※ 履修年次を通して全ての観点について評価することとなるが、学習内容(題材)の各項目において重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。

平成31年度 芸術〔音楽〕

教科	芸術	科目	音楽Ⅲ	単位数	1単位	年次	3年次
使用教科書	音楽Ⅲ (教育出版) 301						
副教材等	なし						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱（合唱を含む）・器楽演奏・創作・鑑賞を柱に学習する。 ・音楽Ⅲは音楽Ⅰ、Ⅱをふまえて、各々の選択者の目的に応じて、より音楽的内容を深めることを目標にしている。 ・普通科・文系選択者の中から、選択して1年間（前・後期各1.5ユニットずつ）履修する。 ・選択者へアンケートを実施し、生徒の状況及び実技レベル等により、適切に教材を選択する。 ・音楽系進学希望者については、実技科目指導、聴音・楽典・ソルフェージュの指導も加えて行う。
--

2 学習の到達目標

音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情と音楽文化を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな音楽の能力を高める。
--

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 表現の創意工夫	c: 表現の技能	d: 鑑賞の能力
観 点 の 趣 旨	音楽や音楽文化に関心をもち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、感受しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように演奏し、表現するか意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表現している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、感受しながら、楽曲や演奏を解釈し、価値を考えたりして、理解を深め、よさや美しさを味わっている。
評 価 方 法	観察 演奏の聴取	観察 演奏の聴取	観察 演奏の聴取	観察 提出物
上に示す観点に基づいて、a:40%、b・c・d:60%の割合で評価し、5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

学期	単元	学習内容	主な評価の観点				題材の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	歌唱	【独唱重唱】 発声法 独唱 二重唱 三重唱	○	○	○		a: 歌曲に関心を持ちそれらの良さを理解しようとしている。 b: 曲の構成を理解し曲の雰囲気を感じ取り、表現を工夫している。 c: 発声や外国語の発音の仕方に留意して、表現の向上を図っている。	観察 演奏の聴取
	器楽	【管楽器】 リコーダー コンサート 【弦楽器】 ギター、箏	○	○	○	○	a 自ら進んで様々な楽器に取り組み、互いに協力して音楽を作り上げている。 b: 楽器の響きや特徴を生かして主体的に演奏している。 c: 音量やフレーズを意識し調和のとれた合奏をしている。 d: 音楽を形づくっている要素を知覚し、特質や雰囲気を感じ取りながら、音楽に対する理解を深め、美しさを感じている。	観察 演奏の聴取
	音楽教養	【音楽史】 【音楽理論】 【自由選択曲】 (各自の進路に適した曲)	○	○	○	○	a: 曲の構成や背景について理解を深めようとしている。 b: 曲の構成を理解し曲の雰囲気を感じ取り、表現を工夫している。 c: 曲に使われているさまざまな楽器の演奏法を理解している。 d: 様々な表現形態を理解し、響きや雰囲気の違いを感じ取っている。	観察 提出物
	鑑賞	【名曲鑑賞】 CD, DVD等 による鑑賞	○			○	a: 曲の背景について理解を深めようとしている。 d: 作曲者や時代による表現の違いを理解しようとしている。	観察 提出物
後期	選択発表	【独唱・奏】 【創作】 各自の進路に適した楽器(歌唱), 創作等に取り組む	○	○	○	○	a: 自ら進んで主体的に演奏に取り組もうとしている。 b: 特徴や役割を理解し、主体的に表現している。 c: 効果や表現方法を考えて、曲の雰囲気を作り出している。 d: 様々な表現形態を理解し、響きや雰囲気の違いを感じ取っている。	観察 演奏の聴取

※ 表中の観点について a: 音楽への関心・意欲・態度 b: 音楽表現の創意工夫
c: 音楽表現の技能 d: 鑑賞の能力

※ 原則として、「歌唱」「器楽」「創作」の分野は a, b, c の3観点で、「鑑賞」の分野は a, c, d の3観点で評価をする。

※ 履修年次を通して全ての観点について評価することとなるが、学習内容(題材)の各項目において重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。

平成31年度 情報科

教科	情報	科目	情報の科学	単位数	1単位	年次	3年次
校内名称	情報			ユニット数	前期1.5	必選別	必修
使用教科書	最新情報の科学 新訂版 (実教出版)						
副教材等	パーフェクトガイド情報 (実教出版)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

- ・情報の実習では、少しでも操作方法や内容が曖昧なまま進むと途中から急に先に進めなくなるのが、普段の勉強以上によく起こります。疑問点はその都度質問したり、教科書・参考書で確認したりするなどして、「全てがわかった」状態で実習を進めることを心がけてください。
- ・評価には課題が大きなウエートを占めています。期限内に課題を確実に提出できるように、計画的に実習を進めることが望まれます。課題作成の際に教員や友人からアドバイスをもらうことはかまいませんが、「他人の課題の丸写し」にならないように気をつけてください。(事情によっては、写した側、提供した側ともに大きく評価を減じることがあります。)
- ・情報の学習においては、常に情報モラルへの高い意識が求められます。実習中には、不正アクセスやコンピュータウィルス等による破壊的活動はもちろんのこと、Web上に掲載されている情報のコピー&ペースト、匿名性の高いコミュニケーションツールを使用した誹謗・中傷(言葉遣い等も含む)など、社会問題となっている事柄が常に隣り合わせに存在します。ひとたび問題が起こると、行為の悪質さや影響範囲の大きさ等に応じて、大きな社会的制裁を受けることは避けられません。これらの行動の多くは安易な気持ち(悪ふざけ)に端を発することが多いようですが、行為の重大さについては、行為を行った本人ではなく周囲が判断する、ということをお肝に銘じ、厳に慎んでください。

2 学習の到達目標

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を多角的・多面的に吟味し、その価値を見極めていこうとする態度 ・自らの情報活用を振り返り、評価し改善しようとする態度 ・情報モラルや情報に対する責任について考え行動しようとする態度 ・情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな事象を情報とその結び付きの視点から捉える力 ・問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力 ・複数の情報を結び付けて新たな意味を見いだす力 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報と情報技術を活用するための基礎・基本的な技能を身に付け、目的に応じて、情報および情報技術を適切に扱う力 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報と情報技術を適切に活用するための知識とそれを活用して問題を発見・解決するための方法についての理解 ・情報社会の進展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響、および、情報に関する法・制度やマナーの意義と情報社会において個人が果たす役割や責任についての理解
評 価 方 法	学習状況の観察 発表	学習状況の観察 実習課題	学習状況の観察 実習課題	学習状況の観察 実習課題
<p>上に示す観点に基づいて、学習のまとめりに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。評価点の割合は、課題点50%程度、平常点50%程度です。</p>				

観点の趣旨	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成について関心を高め、人格の形成と他者と共に生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲を持つとともに、これらに関わる先哲の思想を探究し、人間としてのあり方、生き方について自覚を深めようとする。	他者と共に生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、時代背景や先哲の思想を参考にしながら、多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	先哲の著作や、様々な諸資料を読み、有用な情報を適切に選択して、これらを他者と共に生きる主体としての自己の確立に資するよう活用している。	青年期における自己形成や人間としてのあり方生き方などに関わる先哲の思想などを、他者と共に生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格形成に生かす知識として身につけている。
評価方法	ワークシート レポート 授業の参加態度	定期考査 ワークシート レポート	定期考査 ワークシート レポート	定期考査
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。評価点の割合は、考査点95%程度、平常点5%程度です。				

4 学習の活動

期間	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期中間考査まで	ネットワークとデータベースの活用	・ネットワークの活用	○		○	○	a: ネットワークやデータベースについて、身の回りにある情報システムや提供されるサービスについて関心を持とうとしている。 b: 情報を蓄積・管理することで、どのようなことが可能になるかを考えることができる。問題解決においての情報の有用性について考えることができる。 c: 必要な情報を素早く検索できる。 d: データベースの役割と概念を理解している。	授業観察 実習課題
		・データベース	○	○	○	○		
前期末考査まで	情報技術と社会	・情報化による生活の変化 ・情報技術による社会の発展 ・情報技術を活用した作品の制作	○	○	○	○	a: 情報社会において、情報の発信者および受信者として、情報モラルや法を踏まえて、適切に行動をしようとしている。 b: 情報技術、法や制度および人間との関係に基づいて情報社会の安全や発展について考えることができる。 c: 情報モラルを踏まえて、情報技術を活用することができる。 d: 情報化が人間に及ぼす影響について理解している。 よりよい情報社会を構築するための考え方や工夫について理解している。	授業観察 実習課題

※ 表中の観点について a : 関心・意欲・態度 b : 思考・判断・表現
c : 技能 c : 技能 d : 知識・理解

※ 原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。

平成30年度 数学科

教科	<普通科> 数学 <文理学科> SS理数	科目 (単位数)	<普通科文系>理数数学Ⅱ(4単位)・数学演習B(2単位) <文理学科文科>SS数学Ⅲ(4単位)・SS数学Ⅱ(2単位) <普通科理系>理数数学Ⅱ(6単位) <文理学科理科>SS数学Ⅲ(6単位)	年次	3年次
校内名称 (ユニット数・必選別)		<文系>数学 α ・ β (3ユニット・必修)、数学 γ (1.5ユニット・選択) <理系>数学Ⅲ(3ユニット・必修)、数学C(2ユニット・必修)			
使用教科書	詳説数学Ⅲ(啓林館) ※理系のみ				
副教材等	スタンダード数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B(数研出版) ※全員 オリジナルスタンダード数学演習Ⅲ(数研出版) ※理系のみ				

1 担当者からのメッセージ(学習方法等)

<p> いよいよ多くの授業が演習形式となります。演習形式で最も大事なものは、「予習」→「授業」(→「質問」)→「復習」というサイクルを確実に実行することです。このいずれかでも欠けると、学習の効果が激減します。それぞれのサイクルについて、簡単にアドバイスをしておきましょう。 まず、予習についてですが、本番の試験でも、1問に与えられる時間は長くても30分だと心得ましょう。学習初期の段階で、まだ基本的な知識が充分定着していないような場合、1問ずつにあまりにも長時間をかけているのは効率的とはいえません。ただし、解けなかった場合でも、「解けなかった」で予習を終えるのではなく、手持ちの参考書で類題が無いかわかる、など出来る努力はきちんとして授業に臨みましょう。 授業では、他の人がどのような考え方をしたのか、参考になる考え方はないか、しっかりと情報を吸収してください。ただ「あっていた」「間違っていた」では、授業を受けるメリットはほとんど無いでしょう。万が一、授業で理解出来なかったところがあれば、できるだけ早く質問するなどして解決をしておきましょう。経験上、「あとでやる」≒「やらない」です。 そして、もっとも重要なものが、復習です。わかったつもりでも自分ではなかなか再現できないのが数学の難しさです。何も見ずにスラスラと解答できるようになるまで、何度も復習に励んでください。できれば復習にも、予習時間と同じくらい時間を割くように努力しましょう！ </p> <p> <数学Ⅲの学習方法> 教科書で基本的な事項を完璧にマスターした後、問題集で様々な計算を正確にかつ効率よくできるようにしておくこと。問題集の問題を繰り返し解き、重要な解法を確実に修得することが大切である。解答を参考にするときは、解答を見ながら答案を書いてはいけません。考え方の道筋が理解できたら解答を伏せて自力で書く習慣をつける。くれぐれも「わかったつもり」で放置しないこと。 </p>
--

2 学習の到達目標

演習を通して数学の基礎的な知識や技能を習得します。また事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにします。さらに、それらを活用する態度を身に付けることを目標とします。
--

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:数学的な見方や考え方	c:数学的な技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	数学の考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数学の基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評 価 方 法	提出課題・ノート・観察等	考査	考査	考査
評価点の割合は、考査点90%程度、平常点10%程度です。				

4 学習の活動

【理系・数学Ⅲ】

期間	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期 中間 調査まで	微分法	導関数の応用 いろいろな応用		○	○	○	a. 微分法を応用する方法に関心を持つとともにその効果を認識し、それらを個々の事象に活用しようとしている。 b. グラフの接線と微分係数を結び付けて考えることができる。 c. 関数を微分して増減表などをかくことができる。 d. 微分法を応用させることによって諸所の事象の数学的な分析が可能になることを理解している。	考査 提出課題 ノート 観察等
	積分法	不定積分 定積分	○	○	○	○	a. 不定積分と定積分の意義とその関係に関心を持ち、応用することができる。 b. 不定積分の積分定数Cの意味を理解している。 c. 定積分の計算ができる。 d. 定積分と不定積分の関係について理解している。	考査 提出課題 ノート 観察等
前期 期末 調査まで	積分法の応用	面積 体積 曲線の長さ		○	○	○	a. 積分を応用することでさまざまな数学的な対象をくわしく考察できることに興味を持つ。 b. 定積分を求積と結びつけて考えることができる。 c. 定積分によって面積を求めることができる。 d. 微分の逆演算としての積分法が求積の概念と結びつくことを理解している。	考査 提出課題 ノート 観察等
		数学Ⅲ入試問題演習		○			b. 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	考査 提出課題 観察等
後期		数学Ⅲ入試問題演習 センター試験型問題演習		○		○		考査 提出課題 観察等

【理系・数学C】

期間	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期 中間 調査まで	平面上の曲線	複素数平面 平面図形と複素数	○		○	○	a. 複素数が図形の考察に有用なことに関心を持つ。 b. 複素数を用いて図形的な考察ができる。 c. 極形式について理解し、計算に用いることができる。 d. 図形上での回転や拡大が代数的には積や実数倍に対応すること理解している。	考査 提出課題 ノート 観察等
前期 中間 調査以降		数学ⅠⅡAB演習 センター試験型問題演習	○		○	○	b. 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	考査 提出課題 ノート 観察等

平成30年度 数学科

教科	<普通科> 数学 <文理学科> SS理数	科目 (単位数)	<普通科文系>理数数学Ⅱ(4単位)・数学演習B(2単位) <文理学科文科>SS数学Ⅲ(4単位)・SS数学Ⅱ(2単位) <普通科理系>理数数学Ⅱ(6単位) <文理学科理科>SS数学Ⅲ(6単位)	年次	3年次
校内名称 (ユニット数・必選別)		<文系>数学 α ・ β (3ユニット・必修)、数学 γ (1.5ユニット・選択) <理系>数学Ⅲ(3ユニット・必修)、数学C(2ユニット・必修)			
使用教科書	詳説数学Ⅲ(啓林館) ※理系のみ				
副教材等	スタンダード数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B(数研出版) ※全員 オリジナルスタンダード数学演習Ⅲ(数研出版) ※理系のみ				

1 担当者からのメッセージ(学習方法等)

<p> いよいよ多くの授業が演習形式となります。演習形式で最も大事なものは、「予習」→「授業」(→「質問」)→「復習」というサイクルを確実に実行することです。このいずれかでも欠けると、学習の効果が激減します。それぞれのサイクルについて、簡単にアドバイスをおきましょう。 まず、予習についてですが、本番の試験でも、1問に与えられる時間は長くても30分だと心得ましょう。学習初期の段階で、まだ基本的な知識が充分定着していないような場合、1問ずつにあまりにも長時間をかけているのは効率的とはいえません。ただし、解けなかった場合でも、「解けなかった」で予習を終えるのではなく、手持ちの参考書で類題が無いかわかる、など出来る努力はきちんとして授業に臨みましょう。 授業では、他の人がどのような考え方をしたのか、参考になる考え方はないか、しっかりと情報を吸収してください。ただ「あっていた」「間違っていた」では、授業を受けるメリットはほとんど無いでしょう。万が一、授業で理解出来なかったところがあれば、できるだけ早く質問するなどして解決をおきましょう。経験上、「あとでやる」≒「やらない」です。 そして、もっとも重要なものが、復習です。わかったつもりでも自分ではなかなか再現できないのが数学の難しさです。何も見ずにスラスラと解答できるようになるまで、何度も復習に励んでください。できれば復習にも、予習時間と同じくらい時間を割くように努力しましょう！ </p> <p> <数学Ⅲの学習方法> 教科書で基本的な事項を完璧にマスターした後、問題集で様々な計算を正確にかつ効率よくできるようにしておくこと。問題集の問題を繰り返し解き、重要な解法を確実に修得することが大切である。解答を参考にするときは、解答を見ながら答案を書いてはいけません。考え方の道筋が理解できたら解答を伏せて自力で書く習慣をつける。くれぐれも「わかったつもり」で放置しないこと。 </p>
--

2 学習の到達目標

<p> 演習を通して数学の基礎的な知識や技能を習得します。また事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにします。さらに、それらを活用する態度を身に付けることを目標とします。 </p>

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:数学的な見方や考え方	c:数学的な技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	数学の考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数学の基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評 価 方 法	提出課題・ノート・観察等	考査	考査	考査
評価点の割合は、考査点90%程度、平常点10%程度です。				

4 学習の活動

【理系・数学Ⅲ】

期間	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期 中間 調査まで	微分法	導関数の応用 いろいろな応用		○	○	○	a. 微分法を応用する方法に関心を持つとともにその効果を認識し、それらを個々の事象に活用しようとしている。 b. グラフの接線と微分係数を結び付けて考えることができる。 c. 関数を微分して増減表などをかくことができる。 d. 微分法を応用させることによって諸所の事象の数学的な分析が可能になることを理解している。	考査 提出課題 ノート 観察等
	積分法	不定積分 定積分	○	○	○	○	a. 不定積分と定積分の意義とその関係に関心を持ち、応用することができる。 b. 不定積分の積分定数Cの意味を理解している。 c. 定積分の計算ができる。 d. 定積分と不定積分の関係について理解している。	考査 提出課題 ノート 観察等
前期 期末 調査まで	積分法の応用	面積 体積 曲線の長さ		○	○	○	a. 積分を応用することでさまざまな数学的な対象をくわしく考察できることに興味を持つ。 b. 定積分を求積と結びつけて考えることができる。 c. 定積分によって面積を求めることができる。 d. 微分の逆演算としての積分法が求積の概念と結びつくことを理解している。	考査 提出課題 ノート 観察等
		数学Ⅲ入試問題演習		○			b. 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	考査 提出課題 観察等
後期		数学Ⅲ入試問題演習 センター試験型問題演習		○		○		考査 提出課題 観察等

【理系・数学C】

期間	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期 中間 調査まで	平面上の曲線	複素数平面 平面図形と複素数	○		○	○	a. 複素数が図形の考察に有用なことに関心を持つ。 b. 複素数を用いて図形的な考察ができる。 c. 極形式について理解し、計算に用いることができる。 d. 図形上での回転や拡大が代数的には積や実数倍に対応すること理解している。	考査 提出課題 ノート 観察等
前期 中間 調査以降		数学ⅠⅡAB演習 センター試験型問題演習	○		○	○	b. 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	考査 提出課題 ノート 観察等

平成31年度 理科

教科	理科	科目	物理	単位数	4単位	年次	3年次
校内名称	物理			ユニット数	3.0u	必選別	選択
使用教科書	物理（数研出版）						
副教材等	物理（数研出版）、フォトサイエンス物理図解（数研出版）、チェック&演習物理（数研出版）、重要問題集（数研出版）						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

2年の物理で学んだように、力学により自然界の多くの現象を説明できます。では、力学だけで自然界の全てが説明できるのでしょうか？ 答はNoです。例えば、光は「真空」を伝わることができる波で、力学的な波ではありません。ここで、力学にはなかった「場」が登場します。現代では、光は電場と磁場（電磁場）の振動が伝わる電磁波の一種であることがわかっています。3年の物理では、力学を越えた世界、電気と磁気さらには原子の世界へと進んでみましょう。

2 学習の到達目標

物理的な事物・現象の探究を通して、物理学的に探究していく能力と態度を身につけ、物理学の基本的な原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を身につけていきます。3年の物理では、電気と磁気（電磁気）、さらには原子、原子核、素粒子の世界において、この目標に向かっていきます。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 観察・実験の技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	物理学的な事物・現象に関心や探究心を持ち、主体的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	物理学的な事物・現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物理学的な事物・現象に関する観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	物理学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評 価 方 法	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 探究活動の記録・発表	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 探究活動の記録・発表 授業の基礎確認 定期考査の結果	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 観察・実験の記録 授業の基礎確認 定期考査の結果	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 観察・実験の記録 授業の基礎確認 定期考査の結果

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学期末に5段階の評定にまとめます。評価点の割合は、考査点80%程度、平常点20%程度です。

平成31年度 理科

教科	SS理数	科目	SS物理	単位数	4単位	年次	3年次
校内名称	物理			ユニット数	3.0u	必選別	選択
使用教科書	物理（数研出版）						
副教材等	物理（数研出版）、フォトサイエンス物理図解（数研出版）、チェック&演習物理（数研出版）、重要問題集（数研出版）						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

2年の物理で学んだように、力学により自然界の多くの現象を説明できます。では、力学だけで自然界の全てが説明できるのでしょうか？ 答はNoです。例えば、光は「真空」を伝わることができる波で、力学的な波ではありません。ここで、力学にはなかった「場」が登場します。現代では、光は電場と磁場（電磁場）の振動が伝わる電磁波の一種であることがわかっています。3年の物理では、力学を越えた世界、電気と磁気さらには原子の世界へと進んでみましょう。

2 学習の到達目標

物理的な事物・現象の探究を通して、物理学的に探究していく能力と態度を身につけ、物理学の基本的な原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を身につけていきます。3年の物理では、電気と磁気（電磁気）、さらには原子、原子核、素粒子の世界において、この目標に向かっていきます。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 観察・実験の技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	物理学的な事物・現象に関心や探究心を持ち、主体的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	物理学的な事物・現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物理学的な事物・現象に関する観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	物理学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評 価 方 法	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 探究活動の記録・発表	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 探究活動の記録・発表 授業の基礎確認 定期考査の結果	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 観察・実験の記録 授業の基礎確認 定期考査の結果	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 観察・実験の記録 授業の基礎確認 定期考査の結果

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学期末に5段階の評定にまとめます。評価点の割合は、考査点80%程度、平常点20%程度です。

平成31年度 理科

教科	理科	科目	化学	単位数	4単位	年次	3年次
校内名称	化学A・化学B			ユニット数	3	必選別	必修
使用教科書	化学 改訂版 啓林館						
副教材等	サイエンスビュー化学総合資料(実教出版) ニューグローバル化学基礎+化学(東京書籍) チェック&演習 化学基礎、化学(数研出版) 理系標準問題集 化学(駿台文庫)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

<p>☆ 積極的な自学自習・仕上げに向けて</p> <p>三年生の授業で学習する内容は高度な計算力を要求するものが非常に多く、これまで以上に確かな技術力と処理速度が求められる。授業中には十分な訓練時間を確保することが出来ないため、各自で時間をとってトレーニングする必要がある。その時々目的に合った問題集を利用して、自らを鍛えてほしい。</p> <p>具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ニューグローバル」：提出の指示あり。復習は各自で。苦手分野は基本問題をしっかり押さえていく。 ・「理系標準問題集」：前期化学B、後期化学Aの授業で使用。 ・センター対策「チェック&演習」：提出の指示あり。復習(2周目以降)は各自で行い、前期完了が目標。 ・国公立二次・私大対策「化学重要問題集」：各自で学習する。必問題→A問題→B問題の順に取り組む。最難関校をめざす者は、夏休み終わりまでに全問1周目は済ませる。その後、2周目・3周目へ。難関校をめざす者は、夏休み終わりまでにA問題の1周目は済ませ、その後B問題やA問題2周目へ。 <p>仕上げに向けて意識してほしいことは、高校化学は原子・分子・イオンといった粒子とそれらのキャラクターをつかさどる電子の振る舞いに集約される。そして、それらはどんな高度な化学においても基礎となる。「そうだったのか!」の多い一年となるように。</p>
--

2 学習の到達目標

<p>化学的な事物・現象について観察、実験や課題研究を行い、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。</p>

3 学習評価 (評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 観察・実験の技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	日常生活や社会との関連を 図りながら物質とその変化 について関心を持ち、意欲 的に探求しようとするとし もに、科学的な考え方や見 方を身につけている。	物質とその変化の中に問題 を見だし、探求する過程 を通して、事象を科学的に 考察し、導き出した考えを 的確に表現している。	物質とその変化に関する観 察、実験などを行い、基本 操作を習得するとともに、 それらの過程や結果を的確 に記録、整理し、自然の事 物・現象を科学的に探求す る技能を身に付けている。	物質とその変化について、 基本的な概念や原理・法則 を理解し、知識を身につけ ている。
評 価 方 法	課題の内容 および提出状況	定期考査 実験レポートの内容 小テスト	行動観察 実験レポートの内容	定期考査 小テスト 再テスト
	上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学期末に5段階の評定にまとめます。 評価点の割合は、考查点70~80%程度、平常点30~20%程度です。			
使 用 教 材 等	授業(化学A、2ユニット)：使用教材のうち教科書と資料集の二点は必ず授業の際に用意すること。 演習授業(前期化学B、後期化学A)：理系標準問題集とそれを解答するためのノートを用意すること。 家庭学習：その他の問題集は各自で用意した問題集ごとの演習用ノートに解くこと。 参考図書：(もちろん必携ということではない。) ☆化学重要問題集 化学基礎・化学/数研出版 ☆化学の新研究/三省堂 ISBN 978-4-385-26092-1 2550円+税			

4 学習の活動

期間	授業	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
				a	b	c	d		
前期中間 考査まで	化学A	気体・溶解	混合気体 理想気体と実在気体 溶解のしくみ 極性と溶解性 溶解度	○			○	a:溶解のしくみ、極性と溶解性、溶解度について関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 d:基本的な概念を理解し知識を身につけている。	考査 小テスト 課題
			希薄溶液の性質	○			○	a:蒸気圧降下、沸点上昇、凝固点降下、浸透圧、コロイド溶液について関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 b:記録を元に考察し表現している。 c:コロイド溶液の実験の過程の結果を的確に記録・整理している。 d:基本的な概念を理解し知識を身につけている。	考査 小テスト 課題
			コロイド粒子 コロイド溶液の性質 コロイド溶液の種類	○	○	○	○	a:反応速度、反応の速さを決める条件、反応のしくみ、活性化エネルギーについて関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 d:基本的な概念を理解し知識を身につけている。	考査 課題 実験レポート 実験中の所作
			化学反応の速さ	○			○	a:可逆反応、化学平衡、平衡移動について関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 d:基本的な概念を理解し知識を身につけている。	考査 小テスト 課題
			化学平衡	○			○	a:化学全分野において関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 b:記録を元に考察し表現している。 d:分野間を関連付けて理解し、知識を身につけている。	考査 小テスト 課題
	化学B	入試対策	大学入試対策問題演習	○	○		○	a:化学全分野において関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 b:記録を元に考察し表現している。 d:分野間を関連付けて理解し、知識を身につけている。	小テスト
前期末 考査まで	化学A	水溶液中の化学平衡	電離平衡 電離度・電離定数 加水分解 緩衝液 溶解度積	○			○	a:電離平衡、電離度・電離定数、加水分解、緩衝液、溶解度積について関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 d:基本的な概念を理解し知識を身につけている。	考査 小テスト 課題
			高分子化合物	○	○	○	○	a:糖類、アミノ酸、タンパク質、核酸、合成繊維、プラスチック、天然ゴムと合成ゴムについて関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 b:記録を元に考察し表現している。 c:高分子化合物実験の過程や結果を的確に記録し・整理している。 d:基本的な概念を理解し、知識が身につけている。	考査 小テスト 課題 実験レポート 実験中の所作
	化学B	入試対策	大学入試対策問題演習	○	○		○	a:化学全分野において関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 b:記録を元に考察し表現している。 d:分野間を関連付けて理解し、知識を身につけている。	小テスト
後期以降	化学	入試対策	大学入試対策問題演習	○	○		○	a:化学全分野において関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 b:記録を元に考察し表現している。 d:分野間を関連付けて理解し、知識を身につけている。	考査 課題

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:技能 d:知識・理解

※ 原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。

平成31年度 理科

教科	理科	科目	化学	単位数	4単位	年次	3年次
校内名称	化学A・化学B			ユニット数	3	必選別	必修
使用教科書	化学 改訂版 啓林館						
副教材等	サイエンスビュー化学総合資料(実教出版) ニューグローバル化学基礎+化学(東京書籍) チェック&演習 化学基礎、化学(数研出版) 理系標準問題集 化学(駿台文庫)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

<p>☆ 積極的な自学自習・仕上げに向けて</p> <p>三年生の授業で学習する内容は高度な計算力を要求するものが非常に多く、これまで以上に確かな技術力と処理速度が求められる。授業中には十分な訓練時間を確保することが出来ないため、各自で時間をとってトレーニングする必要がある。その時々目的に合った問題集を利用して、自らを鍛えてほしい。</p> <p>具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ニューグローバル」：提出の指示あり。復習は各自で。苦手分野は基本問題をしっかり押さえていく。 ・「理系標準問題集」：前期化学B、後期化学Aの授業で使用。 ・センター対策「チェック&演習」：提出の指示あり。復習(2周目以降)は各自で行い、前期完了が目標。 ・国公立二次・私大対策「化学重要問題集」：各自で学習する。必問題→A問題→B問題の順に取り組む。最難関校をめざす者は、夏休み終わりまでに全問1周目は済ませる。その後、2周目・3周目へ。難関校をめざす者は、夏休み終わりまでにA問題の1周目は済ませ、その後B問題やA問題2周目へ。 <p>仕上げに向けて意識してほしいことは、高校化学は原子・分子・イオンといった粒子とそれらのキャラクターをつかさどる電子の振る舞いに集約される。そして、それらはどんな高度な化学においても基礎となる。「そうだったのか!」の多い一年となるように。</p>
--

2 学習の到達目標

<p>化学的な事物・現象について観察、実験や課題研究を行い、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。</p>

3 学習評価 (評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 観察・実験の技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	日常生活や社会との関連を 図りながら物質とその変化 について関心を持ち、意欲 的に探求しようとするとし もに、科学的な考え方や見 方を身につけている。	物質とその変化の中に問題 を見だし、探求する過程 を通して、事象を科学的に 考察し、導き出した考えを 的確に表現している。	物質とその変化に関する観 察、実験などを行い、基本 操作を習得するとともに、 それらの過程や結果を的確 に記録、整理し、自然の事 物・現象を科学的に探求す る技能を身に付けている。	物質とその変化について、 基本的な概念や原理・法則 を理解し、知識を身につけ ている。
評 価 方 法	課題の内容 および提出状況	定期考査 実験レポートの内容 小テスト	行動観察 実験レポートの内容	定期考査 小テスト 再テスト
	上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学期末に5段階の評定にまとめます。 評価点の割合は、考查点70~80%程度、平常点30~20%程度です。			
使 用 教 材 等	授業(化学A、2ユニット)：使用教材のうち教科書と資料集の二点は必ず授業の際に用意すること。 演習授業(前期化学B、後期化学A)：理系標準問題集とそれを解答するためのノートを用意すること。 家庭学習：その他の問題集は各自で用意した問題集ごとの演習用ノートに解くこと。 参考図書：(もちろん必携ということではない。) ☆化学重要問題集 化学基礎・化学/数研出版 ☆化学の新研究/三省堂 ISBN 978-4-385-26092-1 2550円+税			

4 学習の活動

期間	授業	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
				a	b	c	d		
前期中間 調査まで	化学A	気体・溶解	混合気体 理想気体と実在気体 溶解のしくみ 極性と溶解性 溶解度	○			○	a: 溶解のしくみ、極性と溶解性、溶解度について関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 d: 基本的な概念を理解し知識を身につけている。	考查 小テスト 課題
			希薄溶液の性質	○			○	a: 蒸気圧降下、沸点上昇、凝固点降下、浸透圧、コロイド溶液について関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 b: 記録を元に考察し表現している。 c: コロイド溶液の実験の過程の結果を的確に記録・整理している。 d: 基本的な概念を理解し知識を身につけている。	考查 小テスト 課題
			コロイド粒子 コロイド溶液の性質 コロイド溶液の種類	○	○	○	○	a: 反応速度、反応の速さを決める条件、反応のしくみ、活性化エネルギーについて関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 d: 基本的な概念を理解し知識を身につけている。	考查 課題 実験レポート 実験中の所作
			化学反応の速さ	○			○	a: 可逆反応、化学平衡、平衡移動について関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 d: 基本的な概念を理解し知識を身につけている。	考查 小テスト 課題
			化学平衡	○			○	a: 化学全分野において関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 b: 記録を元に考察し表現している。 d: 分野間を関連付けて理解し、知識を身につけている。	考查 小テスト 課題
	化学B	入試対策	大学入試対策問題演習	○	○		○	a: 化学全分野において関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 b: 記録を元に考察し表現している。 d: 分野間を関連付けて理解し、知識を身につけている。	小テスト
前期末 調査まで	化学A	水溶液中の化学平衡	電離平衡 電離度・電離定数 加水分解 緩衝液 溶解度積	○			○	a: 電離平衡、電離度・電離定数、加水分解、緩衝液、溶解度積について関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 d: 基本的な概念を理解し知識を身につけている。	考查 小テスト 課題
			高分子化合物	○	○	○	○	a: 糖類、アミノ酸、タンパク質、核酸、合成繊維、プラスチック、天然ゴムと合成ゴムについて関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 b: 記録を元に考察し表現している。 c: 高分子化合物実験の過程や結果を的確に記録し・整理している。 d: 基本的な概念を理解し、知識が身につけている。	考查 小テスト 課題 実験レポート 実験中の所作
	化学B	入試対策	大学入試対策問題演習	○	○		○	a: 化学全分野において関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 b: 記録を元に考察し表現している。 d: 分野間を関連付けて理解し、知識を身につけている。	小テスト
後期以降	化学	入試対策	大学入試対策問題演習	○	○		○	a: 化学全分野において関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 b: 記録を元に考察し表現している。 d: 分野間を関連付けて理解し、知識を身につけている。	考查 課題

※ 表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現
c: 技能 d: 知識・理解

※ 原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。

平成31年度 理科

教科	理科	科目	生物	単位数	前期2 後期2	年次	3年次
校内名称	理系 生物			ユニット数	前期3 後期3	必選別	選必
使用教科書	高等学校生物 第一学習社						
副教材等	改訂版リードα生物 数研出版 三訂版サイエンスビュー生物総合資料 実教出版						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

授業のスピードは速い。授業中は教科書、図説などを広げて講義を聴き、どんなことも聴きもらさな
いぞ、という気概をもって臨んでほしい。また、生物学はいろいろな知識を必要とするので、ふだんか
ら新聞や雑誌、図書などを積極的に読み、最新のニュースをどんどん取り入れる努力が必要である。

大学受験との関係

センター試験の理科においては、国公立大学の多くが理系は基礎なし科目「2科目」を必須としてい
る。受験する大学学部の試験科目をよく調べ、生物を必須とする学部や生物では受験できない学部など
に注意することが重要である。

授業の受け方

1. 講義

ア. 授業中は教科書、資料集の該当ページを広げ、本文や図を見ながら話を聞く。
イ. ノートを要領よくとるとともに、教科書、資料集に線を引いたり、印をつけるという心がけが大切。
ウ. わからないことが出てくれば積極的に先生に質問して解決しよう。授業で解答・解説がある問題は
事前に解き、わからなかったところなど授業中に理解するようにしよう。

2. 演習

ア. 家で問題を解いてくる。次の授業で解答・解説がある問題は事前に解き、わからなかったとこ
ろなど授業中にわかるようにしよう。
イ. 自分の解答と比べながら解説を聞く。自分が解けていても誤った考え方をしている場合もある
のでしっかり聞こう。

2 学習の到達目標

細胞、個体、群集など、各レベルでのさまざまな生命現象を知り、その現象を説明する原理を見出
そうとするのが生物学を学ぶ態度である。遺伝、生殖、発生などのしくみ、動物と植物の環境応答
の違いなどを分子生物学的見地から考察し、また、生態学や進化学の新しい理論に触れることで、
現代の生物学の知識と科学的な自然観を身につける。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 観察・実験の技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	自然の事物・現象、特 に生命現象に関心や探 究心をもち、意欲的に それらを探究しようと するとともに、科学的 態度を身に付けてい る。	自然の事物・現象特に 生命現象の中に問題を 見だし、探究する過 程を通して、事象を科 学的に考察し、導き出 した考えを的確に表現 している。	観察、実験を行い、基 本操作を習得するとと もに、それらの過程や 結果を的確に記録、整 理し、自然の事物・現 象を科学的に探究する 技能を身に付けてい る。	自然の事物・現象、特 に生命現象について、 基本的な概念や原理・ 法則を理解し、知識を 身に付けている。
評 価 方 法	実験レポート問題演習 の記述内容の分析・行 動評価	考査実験レポート問題 演習の記述内容の分 析・行動評価	考査実験レポート問題 演習の記述内容の分 析・行動評価	考査、小テスト、実力 テスト実験レポート問 題演習の記述内容の分 析・行動評価

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとく評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
評価点の割合は、考査点80%程度、平常点20%程度です。

平成31年度 理科

教科	(学)SS理数	科目	SS生物	単位数	前期2 後期2	年次	3年次
校内名称	理系 生物			ユニット数	前期3 後期3	必選別	選必
使用教科書	高等学校生物 第一学習社						
副教材等	改訂版リードα生物 数研出版 三訂版サイエンスビュー生物総合資料 実教出版						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

授業のスピードは速い。授業中は教科書、図説などを広げて講義を聴き、どんなことも聴きもらさな
いぞ、という気概をもって臨んでほしい。また、生物学はいろいろな知識を必要とするので、ふだんか
ら新聞や雑誌、図書などを積極的に読み、最新のニュースをどんどん取り入れる努力が必要である。

大学受験との関係

センター試験の理科においては、国公立大学の多くが理系は基礎なし科目「2科目」を必須としてい
る。受験する大学学部の試験科目をよく調べ、生物を必須とする学部や生物では受験できない学部など
に注意することが重要である。

授業の受け方

1. 講義

- ア. 授業中は教科書、資料集の該当ページを広げ、本文や図を見ながら話を聞く。
- イ. ノートを要領よくとるとともに、教科書、資料集に線を引いたり、印をつけるという心がけが大切。
- ウ. わからないことが出てくれば積極的に先生に質問して解決しよう。授業で解答・解説がある問題は
事前に解き、わからなかったところなど授業中に理解するようにしよう。

2. 演習

- ア. 家で問題を解いてくる。次の授業で解答・解説がある問題は事前に解き、わからなかったとこ
ろなど授業中にわかるようにしよう。
- イ. 自分の解答と比べながら解説を聞く。自分が解けていても誤った考え方をしている場合もある
のでしっかり聞こう。

2 学習の到達目標

細胞、個体、群集など、各レベルでのさまざまな生命現象を知り、その現象を説明する原理を見出
そうとするのが生物学を学ぶ態度である。遺伝、生殖、発生などのしくみ、動物と植物の環境応答
の違いなどを分子生物学的見地から考察し、また、生態学や進化学の新しい理論に触れることで、
現代の生物学の知識と科学的な自然観を身につける。

3 学習評価 (評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 観察・実験の技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	自然の事物・現象、特 に生命現象に関心や探 究心をもち、意欲的に それらを探究しようと するとともに、科学的 態度を身に付けてい る。	自然の事物・現象特に 生命現象の中に問題 を見だし、探究する過 程を通して、事象を科 学的に考察し、導き出 した考えを的確に表現 している。	観察、実験を行い、基 本操作を習得するとと もに、それらの過程や 結果を的確に記録、整 理し、自然の事物・現 象を科学的に探究する 技能を身に付けてい る。	自然の事物・現象、特 に生命現象について、 基本的な概念や原理・ 法則を理解し、知識を 身に付けている。
評 価 方 法	実験レポート問題演習 の記述内容の分析・行 動評価	考查実験レポート問題 演習の記述内容の分 析・行動評価	考查実験レポート問題 演習の記述内容の分 析・行動評価	考查、小テスト、実力 テスト実験レポート問 題演習の記述内容の分 析・行動評価

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
評価点の割合は、考査点80%程度、平常点20%程度です。

4 学習の活動

期間	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期 中間 調査 まで	有性生殖	減数分裂と受精 遺伝子と染色体	○	○		○	a 生殖、発生に関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 b 実験データから考察し、表現することができる。 c 受精や発生の実験技能を身につけている。	定期 調査 小テスト 実験 レポート 課題 ノート
	動物の発生	配偶子形成と受精 初期発生の過程 細胞の分化と形態形成 器官の形成と細胞の死	○		○	○	d 減数分裂、受精、発生の知識を身につけている。また、染色体の振舞いからその生物学的意義を理解している。細胞の分化、器官形成の知識を身につけている。	
	植物の発生	配偶子形成と胚発生	○	○		○		
前期 期末 調査 まで	植物の環境応答	植物の環境応答と植物ホルモン 植物の環境応答とそのしくみ	○		○	○	a 植物の環境応答、動物の反応や行動、生物の集団の振る舞いに関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。 b 実験データから考察し、表現することができる。 c 植物ホルモンや動物の行動の実験技能を身につけている。 d 植物ホルモンの働き、動物における感覚器、神経、筋肉の構造と働き、個体群に関わる知識を身につけている。	定期 調査 小テスト 実験 レポート 課題 ノート
	動物の反応と行動	刺激の需要と反応 動物の行動	○	○		○		
	個体群と生物群集	個体群 生物群集	○		○	○		
後期 中間 調査 まで	生態系	生態系の物質生産 生態系と生物多様性	○	○		○	a 生態系、進化、分類に関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。	定期 調査 小テスト 実験 レポート 課題 ノート
	生物の進化	進化のしくみ 生物の起源と生物の変遷	○	○		○	b データから考察し、表現することができる。 d 物質の循環やエネルギーの流れ、進化のしくみ、系統に基づく分類、を理解している。	
	生物の系統	生物の分類の変遷と系統 生物の系統関係	○	○		○		
	入試問題の演習	入試問題の演習	○	○		○	a 生物全分野に関心を持っている。 b データを考察し表現できる。 d 生物各分野間を関連付けて理解し知識を身につけている。	

※ 表中の観点について a : 関心・意欲・態度 b : 思考・判断・表現
c : 技能 d : 知識・理解

※ 原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。

平成31年度 理科

教科	理科	科目	理科演習	単位数	1単位	年次	3年次
校内名称	化学			ユニット数	1	必選別	選必
使用教科書	化学基礎 新訂版 実教出版						
副教材等	サイエンスビュー化学総合資料(実教出版), ニューグローバル化学基礎+化学(東京書籍), チェック&演習化学基礎(数研出版)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

<p>前期は一・二年に学習した内容がどれだけ定着しているかを確認し、「再度定着させていく」という作業になる。たとえ、問題が出来たとしても「何となく」とか「うる覚えで」ということでは入試問題特有のひねりや、ややこしい計算に惑わされてしまう。とにかく「前期はしっかり基礎を固める」という強い意志をもって取り組もう。</p> <p>後期はセンター演習を繰り返しやっていく。その中で自分が忘れていたこと、抜けていたことをチェックして、隙のない知識を積み上げていこう。</p> <p>文系受験において理科で80%~90%得点できるということは合格への大きな足がかりになる。仕上げに向けて頑張ろう。</p>

2 学習の到達目標

<p>化学的な事物・現象について観察、実験や課題研究を行い、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。</p>

3 学習評価 (評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 観察・実験の技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心を持ち、意欲的に探求しようとするとともに、科学的な考え方や見方を身につけている。	物質とその変化の中に問題を見だし、探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物質とその変化に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探求する技能を身に付けている。	物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。
評 価 方 法	課題プリント 実験プリント	定期考査	定期考査 実験プリント	定期考査 課題プリント
使 用 教 材	<p>授業：使用教材のうち教科書と資料集の2点は必ず授業の際に用意すること。どちらも写真や図など、理解を助ける資料が豊富なので、家庭学習でもこまめに自分で開くこと。</p> <p>家庭学習：問題集は各自で用意した演習用ノート(管理上の問題からルーズリーフなどは避ける)に解くこと。※定期試験前の課題は基本的にノートで提出。</p>			
<p>上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。評価点の割合は、考査点70~80%程度、平常点30~20%程度です。</p>				

平成31年度 理科

教科	理科	科目	SS理科	単位数	1単位	年次	3年次
校内名称	化学			ユニット数	1	必選別	選必
使用教科書	化学基礎 新訂版 実教出版						
副教材等	サイエンスビュー化学総合資料(実教出版), ニューグローバル化学基礎+化学(東京書籍), チェック&演習化学基礎(数研出版)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

<p>前期は一・二年に学習した内容がどれだけ定着しているかを確認し、「再度定着させていく」という作業になる。たとえ、問題が出来たとしても「何となく」とか「うろ覚えで」ということでは入試問題特有のひねりや、ややこしい計算に惑わされてしまう。とにかく「前期はしっかり基礎を固める」という強い意志をもって取り組もう。</p> <p>後期はセンター演習を繰り返しやっていく。その中で自分が忘れていたこと、抜けていたことをチェックして、隙のない知識を積み上げていこう。</p> <p>文系受験において理科で80%~90%得点できるということは合格への大きな足がかりになる。仕上げに向けて頑張ろう。</p>

2 学習の到達目標

<p>物質がさまざまな場面で人間生活にかかわり、役立っていることを理解し、物質の構成や物質の変化に関する見方や考え方を養うとともに、物質やその変化を探究する方法を身につける。また、演習課題に取り組むための力を身につけていく。</p>
--

3 学習評価 (評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 観察・実験の技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心を持ち、意欲的に探求しようとするとともに、科学的な考え方や見方を身につけている。	物質とその変化の中に問題を見だし、探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物質とその変化に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事象・現象を科学的に探求する技能を身に付けている。	物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。
評 価 方 法	課題プリント 実験プリント	定期考査	定期考査 実験プリント	定期考査 課題プリント
使 用 教 材	<p>授業：使用教材のうち教科書と資料集の2点は必ず授業の際に用意すること。どちらも写真や図など、理解を助ける資料が豊富なので、家庭学習でもこまめに自分で開くこと。</p> <p>家庭学習：問題集は各自で用意した演習用ノート(管理上の問題からルーズリーフなどは避ける)に解くこと。※定期試験前の課題は基本的にノートで提出。</p>			
<p>上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにあわせて評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。評価点の割合は、考査点70~80%程度、平常点30~20%程度です。</p>				

平成31年度 理科

教科	理科	科目	理科演習	単位数	1単位/2単位	年次	3年次
校内名称	文系 生物			ユニット数	1/2	必選別	選必
使用教科書	高等学校 生物基礎 第一学習社						
副教材等	三訂版サイエンスビュー生物総合資料(実教出版) 改訂版リードα生物基礎 チェック&演習 生物基礎(数研出版)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

授業のスピードは速い。授業中は教科書、図説などを広げて講義を聴き、どんなことも聴きもらさないぞ、という気概をもって臨んでほしい。また、生物学はいろいろな知識を必要とするので、ふだんから新聞や雑誌、図書などを積極的に読み、最新のニュースをどんどん取り入れる努力が必要である。

大学受験との関係

センター試験の理科においては、国公立大学の多くが文系は基礎を付した科目2科目を必須としている。受験する大学学部の試験科目をよく調べ、生物を必須とする学部や生物では受験できない学部などに注意することが重要である。

授業の受け方

1. 講義

ア. 授業中は集中する。教科書、図説の該当ページを広げ、本文や図を見ながら授業を聴く。すでに習ったことで忘れていた事項が出てくればすぐに教科書や図説を見直して確認する、という心がけが大切である。

イ. ノートは要領よくとる。単に黒板に書かれたことを写すだけではいけない。必要だと思ったことは自分なりに判断してノートをつくらう。

ウ. 疑問点は質問する。わからないことが出てくれば、そのまましておかず積極的に先生に質問して解決しよう。

2. 演習

ア. 家で問題を解いてくる。次の授業で解答・解説がある問題は事前に解き、わからなかったところなど授業中にわかるようにしよう。

イ. 自分の解答と比べながら解説を聞く。自分が解けていても誤った考え方をしている場合もあるのでしっかり聞こう。

2 学習の到達目標

1. さまざまな生命現象を知り、その現象を説明する原理を見出そうとする態度の涵養。
2. その態度をもって基本的な概念や原理を理解し、科学的な自然観を身につける。
3. 大学入試センター試験に充分対応できる学力を身につける。

3 学習評価 (評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 観察・実験の技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評 価 方 法	実験レポートや問題演習の提出及び記述内容の分析・行動観察	考查 実験レポートや問題演習の記述内容の分析	考查 記述内容の分析 行動観察	考查 実力テスト 小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとにより評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。評価点の割合は、考査点80%程度、平常点20%程度です。

4 学習の活動

期間	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法	
			a	b	c	d			
前期 中間 調査まで	バイオーム(後半)	生態系内の物質循環とエネルギーの流れ 生態系のバランス 人間活動による生態系への影響 自然環境の保全		○		○	a 生態系の成り立ちについて関心をもち、意欲的に理解しようとする。 d バイオームにおける物質の循環とエネルギーの流れを理解し、人間活動による生態系への影響を考察し、これからの自然環境の保全について望ましい展望を身につける。 d 生物濃縮などについて実習プリント等での演習を通して実体を把握する。	考查 実習プリント	
前期 期末 調査まで	生物基礎の復習(前半)	生物基礎の復習(前半)		○		○	a 生物の共通性や多様性に対して関心をもち、意欲的に学習する。 d 生物の多様性から体内環境の恒常性(前半)までの復習を問題演習形式にて行う。	考查 課題プリント	
後期 中間 調査まで	生物基礎の復習(後半)	生物基礎の復習(後半)		○		○	a 生物の共通性や多様性に対して関心をもち、意欲的に学習する。 d 体内環境の恒常性(後半)からバイオームまでの復習を問題演習形式にて行う。	考查 課題プリント	
後期 期末 調査まで	センター 実践 演習	択一式問題の演習		○	○	○	○	a 生物の共通性や多様性に対して関心をもち、意欲的に学習する。 b 物質やエネルギーの流れを科学的に考察し、理解する。 c インターネットなどを利用して、信頼のできる情報を得ることができる。 d 生物基礎の全範囲にわたる総合問題にも対応できる、問題演習を行う。	考查

※ 表中の観点について a : 関心・意欲・態度 b : 思考・判断・表現
c : 技能 d : 知識・理解

※ 原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。

ワンポイント豆知識

ゾウはネズミよりずっと長生きであるが、一生の間に心臓が打つ拍動の総数や体重あたりのエネルギー使用量は同じである。(中公新書「ゾウの時間 ネズミの時間」本川達雄より)

平成31年度 理科

教科	(学)SS理数	科目	(学)SS理科	単位数	1単位/2単位	年次	3年次
校内名称	文系 生物			ユニット数	1/2	必選別	選必
使用教科書	高等学校 生物基礎 第一学習社						
副教材等	三訂版サイエンスビュー生物総合資料(実教出版) 改訂版リードα生物基礎 チェック&演習 生物基礎(数研出版)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

授業のスピードは速い。授業中は教科書、図説などを広げて講義を聴き、どんなことも聴きもらさないぞ、という気概をもって臨んでほしい。また、生物学はいろいろな知識を必要とするので、ふだんから新聞や雑誌、図書などを積極的に読み、最新のニュースをどんどん取り入れる努力が必要である。

大学受験との関係

センター試験の理科においては、国公立大学の多くが文系は基礎を付した科目2科目を必須としている。受験する大学学部の試験科目をよく調べ、生物を必須とする学部や生物では受験できない学部などに注意することが重要である。

授業の受け方

1. 講義

ア. 授業中は集中する。教科書、図説の該当ページを広げ、本文や図を見ながら授業を聴く。すでに習ったことで忘れていた事項が出てくればすぐに教科書や図説を見直して確認する、という心がけが大切である。

イ. ノートは要領よくとる。単に黒板に書かれたことを写すだけではいけない。必要だと思ったことは自分なりに判断してノートをつくらう。

ウ. 疑問点は質問する。わからないことが出てくれば、そのまましておかず積極的に先生に質問して解決しよう。

2. 演習

ア. 家で問題を解いてくる。次の授業で解答・解説がある問題は事前に解き、わからなかったところなど授業中にわかるようにしよう。

イ. 自分の解答と比べながら解説を聞く。自分が解けていても誤った考え方をしている場合もあるのでしっかり聞こう。

2 学習の到達目標

1. さまざまな生命現象を知り、その現象を説明する原理を見出そうとする態度の涵養。
2. その態度をもって基本的な概念や原理を理解し、科学的な自然観を身につける。
3. 大学入試センター試験に充分対応できる学力を身につける。

3 学習評価 (評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 観察・実験の技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評 価 方 法	実験レポートや問題演習の提出及び記述内容の分析・行動観察	考査 実験レポートや問題演習の記述内容の分析	考査 記述内容の分析 行動観察	考査 実力テスト 小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとく評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。評価点の割合は、考査点80%程度、平常点20%程度です。

4 学習の活動

期間	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法	
			a	b	c	d			
前期 中間 調査まで	バイオーム(後半)	生態系内の物質循環とエネルギーの流れ 生態系のバランス 人間活動による生態系への影響 自然環境の保全		○		○	a 生態系の成り立ちについて関心をもち、意欲的に理解しようとする。 d バイオームにおける物質の循環とエネルギーの流れを理解し、人間活動による生態系への影響を考察し、これからの自然環境の保全について望ましい展望を身につける。 d 生物濃縮などについて実習プリント等での演習を通して実体を把握する。	考查 実習プリント	
前期 期末 調査まで	生物基礎の復習(前半)	生物基礎の復習(前半)		○		○	a 生物の共通性や多様性に対して関心をもち、意欲的に学習する。 d 生物の多様性から体内環境の恒常性(前半)までの復習を問題演習形式にて行う。	考查 課題プリント	
後期 中間 調査まで	生物基礎の復習(後半)	生物基礎の復習(後半)		○		○	a 生物の共通性や多様性に対して関心をもち、意欲的に学習する。 d 体内環境の恒常性(後半)からバイオームまでの復習を問題演習形式にて行う。	考查 課題プリント	
後期 期末 調査まで	センター 実践 演習	択一式問題の演習		○	○	○	○	a 生物の共通性や多様性に対して関心をもち、意欲的に学習する。 b 物質やエネルギーの流れを科学的に考察し、理解する。 c インターネットなどを利用して、信頼のできる情報を得ることができる。 d 生物基礎の全範囲にわたる総合問題にも対応できる、問題演習を行う。	考查

※ 表中の観点について a : 関心・意欲・態度 b : 思考・判断・表現
c : 技能 d : 知識・理解

※ 原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。

ワンポイント豆知識

ゾウはネズミよりずっと長生きであるが、一生の間に心臓が打つ拍動の総数や体重あたりのエネルギー使用量は同じである。(中公新書「ゾウの時間 ネズミの時間」本川達雄より)

平成31年度 理科

教科	理科	科目	(学) 理科演習(地学)	単位数	前期0.5/1単位 後期0.5/1単位	年次	3年次
校内名称	地学			ユニット数	前期1.0/2.0 後期1.0/2.0	必選別	選必
使用教科書	地学基礎 改訂版(啓林館)						
副教材等	資料集: ニューステージ 新地学図表(浜島書店) 問題集: センサー地学基礎改訂版(啓林館)						

1 担当者からのメッセージ(学習方法等)

<p>引き続き、原理・法則に基づいて理解するように努めること。様々な用語は、覚えるべき言葉というより「現象や事実を『説明するための道具』」である。また地学には、物理や化学の基本的知識や法則も出てくる。それらもすべて多様な地学現象を『理解するための道具』にすぎない。積極的に理解するように努めること。具体的には、以下のことを重視して学習を進めること。</p> <p>1. 苦手分野を作らない! …… 夏までに克服。そのための既習範囲の総復習。 2. 計算問題を嫌がらない! …… 中学校までの数学で学習した公式をあなどるなかれ。 3. 教科書をしっかり読む! …… 教科書はすべての基本。困ったら教科書にかえれ。</p> <p>皆さんの努力に期待します。</p>

2 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> 地球と地球をとりまく宇宙について関心を持ち、基本的な概念や原理・法則を理解する。 目的意識をもって実験実習・観察に取り組み、地学的に考察する能力と態度を身につける。 それぞれの学習事項を関連させて考え、地学的な事物・現象を総合的に理解する。 日常生活や社会との関連にも注目し、人類と自然環境の共生について考えを深める。
--

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 観察・実験の技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、地学的な事物・現象を一連の時間の流れの中で捉えるなど、科学的な見方や考え方を身に付けている。	地球や地球をとりまく環境に関する事物・現象を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	地球や地球を取り巻く環境に関する観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	地球や地球を取り巻く環境について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評 価 方 法	課題ノート、実験レポート、長期休業中の課題の提出状況 授業中に行う演習問題の取り組みの態度	考查問題における習熟度・理解度	実験レポートおよび考查問題における習熟度・理解度	考查問題における習熟度・理解度

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期末に5段階の評定にまとめます。評価点の割合は、考查点80%程度、平常点20%程度です。

平成31年度 (学)SS理数

教科	(学)SS理数	科目	(学)SS理科(地学)	単位数	前期0.5/1単位 後期0.5/1単位	年次	3年次
校内名称	地学			ユニット数	前期1.0/2.0 後期1.0/2.0	必選別	選必
使用教科書	地学基礎 改訂版(啓林館)						
副教材等	資料集: ニューステージ 新地学図表(浜島書店) 問題集: センサー地学基礎改訂版(啓林館)						

1 担当者からのメッセージ(学習方法等)

<p>引き続き、原理・法則に基づいて理解するように努めること。様々な用語は、覚えるべき言葉というより「現象や事実を『説明するための道具』」である。また地学には、物理や化学の基本的知識や法則も出てくる。それらもすべて多様な地学現象を『理解するための道具』にすぎない。積極的に理解するように努めること。具体的には、以下のことを重視して学習を進めること。</p> <p>1. 苦手分野を作らない! …… 夏までに克服。そのための既習範囲の総復習。 2. 計算問題を嫌がらない! …… 中学校までの数学で学習した公式をあなどるなかれ。 3. 教科書をしっかり読む! …… 教科書はすべての基本。困ったら教科書にかえれ。</p> <p>皆さんの努力に期待します。</p>

2 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> 地球と地球をとりまく宇宙について関心を持ち、基本的な概念や原理・法則を理解する。 目的意識をもって実験実習・観察に取り組み、地学的に考察する能力と態度を身につける。 それぞれの学習事項を関連させて考え、地学的な事物・現象を総合的に理解する。 日常生活や社会との関連にも注目し、人類と自然環境の共生について考えを深める。
--

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 観察・実験の技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境について関心を持ち、意欲的に探究しようとするとともに、地学的な事物・現象を一連の時間の流れの中で捉えるなど、科学的な見方や考え方を身に付けている。	地球や地球をとりまく環境に関する事物・現象を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	地球や地球を取り巻く環境に関する観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	地球や地球を取り巻く環境について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評 価 方 法	課題ノート、実験レポート、長期休業中の課題の提出状況 授業中に行う演習問題の取り組みの態度	考查問題における習熟度・理解度	実験レポートおよび考查問題における習熟度・理解度	考查問題における習熟度・理解度

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、各学期末に5段階の評定にまとめます。評価点の割合は、考查点80%程度、平常点20%程度です。

平成31年度 外国語・英語

教科	外国語	科目	コミュニケーションⅢ(前期)	単位数 前期2	年次	3年次
校内名称	英R			ユニット	2.5	必選別 必
使用教科書	Unicorn English Communication Ⅲ (文英堂)					
副教材等	Cutting Edge 3(エミル出版) システム英単語(駿台文庫) センター英語読解トレーニング(エミル出版) 基礎 英文問題精講(旺文社)					

1. 担当者からのメッセージ

正確で早い英文読解のためには、これまで教科書、シス単、Power Stage、その他の教材で学習してきた語彙、文法を確実にするため、繰り返して学習することが大事です。授業の予習や模試などで初見の文章を読むときには、まず概要・大意をつかみ、それから精読に移りましょう。復習の際には、辞書・参考書を使って単語・文法などを確認し定着させることをおろそかにしないようにしてください。また、英文自体が高度な内容になりますので、日頃から様々な話題に関心をもち、触れておくことが望ましいです。

【第3学年】学習到達目標

①話すこと		②書くこと		③聞くこと		④読むこと	
学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価
<ul style="list-style-type: none"> 興味・関心のあるトピックに関して具体的な理由を示しながら説得力をもって、賛成や反対の意見を述べるができる。 様々なトピックに関して、他者の意見を聞き、自分の意見を正確に表明し、円滑に会話を進めることができる。 	コミュⅢ 英表Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> 様々なトピックについて書かれた英文を読み、また話された英文を聞いて、その概要を書くことができる。 自分の意見を具体的な事例や理由を添えて論理の明確な複数の段落からなる英文で、時間をかけた修正を経て書くことができる。 	英表Ⅱ ・エッセーライティング ・定期考査 (学)イングリッシュプラクティス	<ul style="list-style-type: none"> 興味・関心のある分野で自然な速さで話されるニュースを聞き、映像をヒントに事実関係を把握することができる。 自然な速さで標準的な発音で話されるテレビ番組や映画の母語話者どうしの会話の流れについていくことができる。 	英表Ⅱ (Reading) ・リスニングテスト ・定期考査 (学)イングリッシュプラクティス	<ul style="list-style-type: none"> 小説や自叙伝、伝記などを辞書に頼りすぎることなく、一定の速度で読み続け、全体の概要を把握することができる。 海外の新聞記事やレポートなどを一読して、その内容の重要度を判断し、必要に応じて読む速度や読み方を変えて、正確に読むことができる。 	コミュⅢ リーディングテスト ・定期考査 英表Ⅱ ・定期考査 (学)イングリッシュプラクティス 2テスト

【年間指導計画】

学期	単元 (配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習活動	単元の評価基準	評価方法
前 期 (R)	Unicorn Ⅲ L11(2~3時間)	A Paradise Built in Hell	リーディングスキルとして、何を対比して述べているのが整理する。	・速読演習(センター) ・本文の読み(精読、音読) ・単語の小テスト	①④	①④定期考査
	L12	What We're Learning from Online Education	オンライン教育から何を学べるか理解できたか	・速読演習(センター) ・本文の読み(精読、音読) ・単語の小テスト	①④	①④定期考査
	Cutting Edge Ch1(2~3時間)	絶滅種とDNA	絶滅動物の復活とゲノム配列の復元について理解できたか	・速読演習(センター) ・本文の読み(精読、音読) ・単語の小テスト	①④	①④定期考査
	Ch2(2~3時間)	言語の変化	英単語の意味の変化を読み取れたか	・速読演習(センター) ・本文の読み(精読、音読) ・単語の小テスト	①④	①④定期考査
	Ch3(2~3時間)	視覚	マイクの事例から、視覚と脳の関係について理解できたか	・速読演習(センター) ・本文の読み(精読、音読) ・単語の小テスト	①④	①④定期考査
	Ch4(2~3時間)	米国の格差	米国の機会の不平等とその回復の難しさについて理解できたか	・速読演習(センター) ・本文の読み(精読、音読) ・単語の小テスト	①④	①④定期考査
	Ch5(2~3時間)	温暖化の証明	地球温暖化の判断に用いられたデータとその考察について理解できたか	・速読演習(センター) ・本文の読み(精読、音読) ・単語の小テスト	①④	①④定期考査
Ch6(2~3時間)	幸福な惑星	地球のおかれた状況を理解できたか	・速読演習(センター) ・本文の読み(精読、音読) ・単語の小テスト	①④	①④定期考査	

【学習評価(評価の観点と実施方法)】

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や異文化についての知識理解
実施方法	授業態度、ペアワーク	定期考査、ペアワーク	定期考査、発表	定期考査、小テスト

示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。評価点の割合は、考査点90%。平常点10%程度

平成31年度 外国語・英語

教科	外国語	科目	英語表現Ⅱ	単位数 前期1	年次	3年次
校内名称	英W			ユニット	2	必選別 必
使用教科書	POLESTAR English Expression II					
副教材等	選・英作文300題(日栄社)	英文法・英作文演習 3訂版(日栄社)	POWER STAGE (桐原書店)	センターリスニング分野別10 min. (エミル)		

1. 担当者からのメッセージ

英語の文章を書くには、文法力と語彙力が必要であることは言うまでもないが、さらに大切なことは、今まで学習してきた構文や熟語等から自分が英語で書きたいと思っている「内容」に合うものを選び出せるかどうかである。英作文では、文法や語彙を始め、構文や熟語、表現等をできるだけ覚え、それを「真似て」いくことが大切である。授業前に自分自身で英語をしっかり書いていくことが極めて重要である。

【第3学年】学習到達目標

①話すこと		②書くこと		③聞くこと		④読むこと	
学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価
・興味・関心のあるトピックに関して、具体的な理由を示しながら説得力をもって、賛成や反対の意見を述べることができる。	コミュニケーション英語Ⅲ ・プレゼンテーション ・ディベート	・様々なトピックについて書かれた英文を読み、また話された英文を聞いて、それぞれのポイントを捉えて、その概要を簡潔に書くことができる。	英語表現Ⅱ ・エッセーライティング ・定期考査	・興味・関心のある分野で自然な速さで話されるニュースを聞き、映像をヒントに事実関係を把握することができる。	英語表現Ⅱ ・リスニングテスト ・定期考査	・小説や自叙伝、天気などを辞書に頼りすぎることなく、一定の速度で読み続け、全体の概要を把握することができる。	コミュニケーション英語Ⅲ ・リーディングテスト ・定期考査
・様々なトピックに関して、他者の意見を聞き、自分の意見を正確に表明し、円滑に会話を進めることができる。	英語表現Ⅱ ・プレゼンテーション ・インタビューテスト	・自分の意見を具体的な事例や理由を添えて論理の明確な複数の段落からなる英文で、時間をかけた修正を経て書くことができる。	(学)イングリッシュプラクティス	・自然な速さで標準的な発音で話されるテレビ番組や映画の母語話者どうしの会話の流れについていくことができる。	(学)イングリッシュプラクティス	・海外の新聞記事やレポートなどを一読して、その内容の重要度を判断し、必要に応じて読む速度や読み方を変えて、正確に読むことができる。	英語表現Ⅱ ・定期考査 (学)イングリッシュプラクティス

【年間指導計画】

学期	単元(配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習活動	単元の評価基準	評価方法
前	精選英作文300題 L1 (1時間)	基本時制	今まで学習してきた基礎・基本の内容を確認しながら、本格的にそれらを適切に活用し、自分が書きたい英語が書ける応用力を図る。	・問題演習 ・ペアーワーク(復習、暗唱例文練習、解答検討)	②④	②④定期考査
	精選英作文300題 L2 (1時間)	完了形	今まで学習してきた基礎・基本の内容を確認しながら、本格的にそれらを適切に活用し、自分が書きたい英語が書ける応用力を図る。	・問題演習 ・ペアーワーク(復習、暗唱例文練習、解答検討)	②④	②④定期考査
	精選英作文300題 L3 (1時間)	助動詞	今まで学習してきた基礎・基本の内容を確認しながら、本格的にそれらを適切に活用し、自分が書きたい英語が書ける応用力を図る。	・問題演習 ・ペアーワーク(復習、暗唱例文練習、解答検討)	②④	②④定期考査
	精選英作文300題 L4 (1時間)	受動態	今まで学習してきた基礎・基本の内容を確認しながら、本格的にそれらを適切に活用し、自分が書きたい英語が書ける応用力を図る。	・問題演習 ・ペアーワーク(復習、暗唱例文練習、解答検討)	②④	②④定期考査
	精選英作文300題 L5 (1時間)	重要動詞	今まで学習してきた基礎・基本の内容を確認しながら、本格的にそれらを適切に活用し、自分が書きたい英語が書ける応用力を図る。	・問題演習 ・ペアーワーク(復習、暗唱例文練習、解答検討)	②④	②④定期考査
	精選英作文300題 L6 (1時間)	不定詞	今まで学習してきた基礎・基本の内容を確認しながら、本格的にそれらを適切に活用し、自分が書きたい英語が書ける応用力を図る。	・問題演習 ・ペアーワーク(復習、暗唱例文練習、解答検討)	②④	②④定期考査
	精選英作文300題 L7 (1時間)	分詞	今まで学習してきた基礎・基本の内容を確認しながら、本格的にそれらを適切に活用し、自分が書きたい英語が書ける応用力を図る。	・問題演習 ・ペアーワーク(復習、暗唱例文練習、解答検討)	②④	②④定期考査
	精選英作文300題 L8 (1時間)	動名詞	今まで学習してきた基礎・基本の内容を確認しながら、本格的にそれらを適切に活用し、自分が書きたい英語が書ける応用力を図る。	・問題演習 ・ペアーワーク(復習、暗唱例文練習、解答検討)	②④	②④定期考査
	精選英作文300題 L9 (1時間)	前置詞	今まで学習してきた基礎・基本の内容を確認しながら、本格的にそれらを適切に活用し、自分が書きたい英語が書ける応用力を図る。	・問題演習 ・ペアーワーク(復習、暗唱例文練習、解答検討)	②④	②④定期考査
	精選英作文300題 L10 (1時間)	関係詞	今まで学習してきた基礎・基本の内容を確認しながら、本格的にそれらを適切に活用し、自分が書きたい英語が書ける応用力を図る。	・問題演習 ・ペアーワーク(復習、暗唱例文練習、解答検討)	②④	②④定期考査
(W)	精選英作文300題 L11 (1時間)	比較	今まで学習してきた基礎・基本の内容を確認しながら、本格的にそれらを適切に活用し、自分が書きたい英語が書ける応用力を図る。	・問題演習 ・ペアーワーク(復習、暗唱例文練習、解答検討)	②④	②④定期考査
	システム英作文 L1~10 (1時間)	無生物、関係詞、接続詞、時制、助動詞、仮定法、不定詞、動名詞、分詞、態	英作文をする上で基礎・基本になる項目を問題演習形式で確認するとともに、比較的簡単な英作文問題を使用して、応用力の定着を図る。	・問題演習 ・ペアーワーク(復習、暗唱例文練習、解答検討)	②④	②④定期考査
	Hyper Listening L1~20 (1時間)	登場人物の行動や感情を判断する問題・金額の計算問題	登場人物の行動・感情や会話の流れを把握するために、英語の音声に慣れ、また、よく使用される会話表現を理解することを目指す。	・問題演習 ・ディクテーション	③	③定期考査

【学習評価(評価の観点と実施方法)】

観 点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識理解
実 施 方 法	授業態度、ペアーワーク	定期考査、ペアーワーク	定期考査、発表	定期考査、小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまともなことに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。評価点の割合は、考査点90%程度、平常点10%程度です。

平成31年度 外国語・英語

教科	外国語	科目	(学)英語演習C	単位数 前期! 後期!	年次	3年次
校内名称	英語C			ユニット	1.5	必選別 選
使用教科書	OVER ALL 英語総合問題集 5					
副教材等						

1. 担当者からのメッセージ

本文の内容は多岐に渡っており、さまざまな分野の知識、語彙を身につける機会となる。新出語彙は折にふれ復習し、音読、黙読、Dictationで語彙、文法だけでなく、話の流れ等も追いながら復習すること。

【第3学年】学習到達目標

①話すこと		②書くこと		③聞くこと		④読むこと	
学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価
<ul style="list-style-type: none"> 興味・関心のあるトピックに関して具体的な理由を示しながら説得力をもって、賛成や反対の意見を述べるができる。 様々なトピックに関して、他者の意見を聞き、自分の意見を正確に表明し、円滑に会話を進めることができる。 	英理 英理	<ul style="list-style-type: none"> 様々なトピックについて書かれた英文を読み、また話された英文を聞いて、その概要を書くことができる。 自分の意見を具体的な事例や理由を添えて論理の明確な複数の段落からなる英文で、時間をかけた修正を経て書くことができる。 	英理 ・エッセーライティング ・定期考査	<ul style="list-style-type: none"> 興味・関心のある分野で自然な速さで話されるニュースを聞き、映像をヒントに事実関係を把握することができる。 自然な速さで標準的な発音で話されるテレビ番組や映画の母語話者どうしの会話の流れについていくことができる。 	英理 ・リスニングテスト ・定期考査	<ul style="list-style-type: none"> 小説や自叙伝、伝記などを辞書に頼りすぎることなく、一定の速度で読み続け、全体の概要を把握することができる。 海外の新聞記事やレポートなどを一読して、その内容の重要度を判断し、必要に応じて読む速度や読み方を変えて、正確に読むことができる。 	英理 ・リーディングテスト ・定期考査 英理 ・定期考査

【年間指導計画】

学期	単元(配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習活動	単元の評価基準	評価方法
前 期	L1(2~3時間)	脳の機能の仕方	ニューロン、運動の働きを理解する。	Readingの活動、Writingの活動、テキストのDictation	②③④	②③④定期考査
	L2(2~3時間)	携帯電話の発達による弊害	携帯電話の影響を理解する。	Readingの活動、Writingの活動、テキストのDictation	②③④	②③④定期考査
	L3(2~3時間)	ペットは飼い主の心を読めるか?	ペットの状況とそれに関する調査を理解する。	Readingの活動、Writingの活動、テキストのDictation	②③④	②③④定期考査
	L4(2~3時間)	怒りの受け取られ方による違い	文化の違いによる怒りの違いを理解する。	Readingの活動、Writingの活動、テキストのDictation	②③④	②③④定期考査
	L5(2~3時間)	幸せな老後について	ストレスを減らし、老化を緩和する人間関係を理解する。	Readingの活動、Writingの活動、テキストのDictation	②③④	②③④定期考査
	L6(2~3時間)	人間は環境とどう関わるべきか	人間が積極的に自然を回復させる試みを理解する。	Readingの活動、Writingの活動、テキストのDictation	②③④	②③④定期考査
	L7(2~3時間)	状況や相手のによって話し方を変えることについて	相手によってその話し方を理解させる要因を理解する。	Readingの活動、Writingの活動、テキストのDictation	②③④	②③④定期考査
後 期	L8(2~3時間)	企業の社会的責任について	企業の社会的責任は種類ごとに変わってくることを理解する。	Readingの活動、Writingの活動、テキストのDictation	②③④	②③④定期考査
	L9(2~3時間)	歴史家にとっての歴史とは	筆者の歴史に対する見方を理解する。	Readingの活動、Writingの活動、テキストのDictation	②③④	②③④定期考査
	L10(2~3時間)	宇宙飛行士にとっての食べ物の重要性	宇宙飛行士にとっての宇宙での食べ物に関わる問題を理解する。	Readingの活動、Writingの活動、テキストのDictation	②③④	②③④定期考査
	L11(2~3時間)	科学的手法の5つのステップ	科学的手法の5つのステップとその役割を理解する。	Readingの活動、Writingの活動、テキストのDictation	②③④	②③④定期考査
	L12(2~3時間)	子供の生まれつきの気質について	子供の基本的な気質特性とそれに関連した情報を理解する。	Readingの活動、Writingの活動、テキストのDictation	②③④	②③④定期考査
	L13(2~3時間)	思春期の思考の変化について	動植物の調和的行動や体内の細胞のこうした調和的な動きを理解する。	Readingの活動、Writingの活動、テキストのDictation	②③④	②③④定期考査

評価点の割合は考査点90%程度、平常点10%程度で、学期末に5段階の評定にまとめます。

学習評価(観点・実施方法)

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識理解
実施方法	ペアワーク等のコミュニケーション活動で評価	writing活動のテストで評価。	定期テストでのリスニング並びにリーディングで評価。授業時の発問に対する内容並びに定期テストで評価。	

上記の観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価、学年末に5段階評定で評価。内容に応じて、上記各観点は、適度に配分し評価。

平成31年度 外国語・英語

教科	外国語	科目	(学)英語演習D	単位数	前期1 後期1	年次	3年次
校内名称	英語D			ユニット	1.5	必選別	選
使用教科書	Play On リスニング徹底演習 入試編2(数研出版)						
副教材等	プリント等						

1. 担当者からのメッセージ

スピーキング、リスニングを中心に「英語を使う」ことを目指した活動を行う。スピーキング活動では間違えを恐れて発話を控えるより、まず自分の言いたいことを発話し、コミュニケーションをとることが大事になってくる。積極的な発言、授業参加が求められる。リスニングは実際の入試問題の高いレベルの英文に挑戦する。

【第3学年】学習到達目標

①話すこと		②書くこと		③聞くこと		④読むこと	
学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価
<ul style="list-style-type: none"> 興味・関心のあるトピックに関して具体的な理由を示しながら説得力をもって、賛成や反対の意見を述べることができる。 様々なトピックに関して、他者の意見を聞き、自分の意見を正確に表明し、円滑に会話を進めることができる。 	コミュⅢ 英表Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> 様々なトピックについて書かれた英文を読み、また話された英文を聞いて、その概要を書くことができる。 自分の意見を具体的な事例や理由を添えて論理の明確な複数の段落からなる英文で、時間をかけた修正を経て書くことができる。 	英表Ⅱ ・エッセーライティング ・定期考査 (学)イングリッシュプラクティス	<ul style="list-style-type: none"> 興味・関心のある分野で自然な速さで話されるニュースを聞き、映像をヒントに事実関係を把握することができる。 自然な速さで標準的な発音で話されるテレビ番組や映画の母語話者どうしの会話の流れについていくことができる。 	英表Ⅱ (Reading) ・リスニングテスト ・定期考査 (学)イングリッシュプラクティス	<ul style="list-style-type: none"> 小説や自叙伝、伝記などを辞書に頼りすぎることなく、一定の速度で読み続け、全体の概要を把握することができる。 海外の新聞記事やレポートなどを一読して、その内容の重要性を判断し、必要に応じて読む速度や読み方を変えて、正確に読むことができる。 	コミュⅢ ・リーディングテスト ・定期考査 英表Ⅱ ・定期考査 (学)イングリッシュプラクティス

【年間指導計画】

学期	単元(配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習活動	単元の評価基準	評価方法
前中期	Unit1~7 (10時間)	実用英語(4技能):演習・活動	情報を整理し、個人の経験、意見、感情、個人の事情、主張、実験を聞き取る。ショートスピーチ、プレゼンテーションなどみに対して発表活動ができる。英語の4技能を磨く。	ポイント聞き取り、単語の聞き取り、Dictation、意見を言ったり書いたり、コミュニケーション活動、発表活動	①②③④	①②③④定期考査、小テスト(発表活動を含む)、提出物
前期末	L8~14(10時間)	実用英語(4技能):演習・活動	過去と現在の対比、比較したもののより点、悪い点、主張、反論。レポートの書き方。	ポイント聞き取り、単語の聞き取り、Dictation、意見を言ったり書いたり、コミュニケーション活動、Book Report	①②③④	①②③④定期考査、小テスト(発表活動を含む)、提出物
後期	L15~L20(13時間)	Listening演習・長文演習	講義の聞き取り、研究レポートの聞き取り、原因と影響を含む文の聞き取りができる。資料の内容を踏まえた発話ができる。4技能統合TOEFL活動。	Reading・Writing・Listeningの活動、資料の読解。	①②③④	①②③④定期考査、小テスト(発表活動を含む)、提出物

学習評価(観点・実施方法)

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識理解
実施方法	ペアワーク/グループワーク、発表などのコミュニケーション活動で評価	エッセーライティングの課題や考査、およびペアワークやグループワーク、発表などの内容で評価。	リスニング(音声教材、教員の説明など)やリーディング教材の理解の度合いを日常の活動や考査で評価、	授業時の発問に対する内容並びに定期テストで評価
上記の観点に基づいて、評価点の割合は考査点80%程度、平常点20%程度で、学期末に5段階の評定にまとめる。				

平成31年度 外国語・英語

教科	外国語	科目	(学)イングリッシュプラクティス(後期)	単位数 後期3	年次	3年次
校内名称	英R、英W			ユニット	4.5	必選別 必
使用教科書	Cutting edge3(エミル出版)、精選・英作文300題(日栄社)					
副教材等	英文法・英作文演習 3訂版(日栄社) POWWER STAGE (桐原書店) センターリスニング分野別10 min. (エミル出版)					

1. 担当者からのメッセージ

これまで学習してきた内容を本格的に応用していく授業になります。英Rにおいては、語彙、熟語、構文や文法などを把握した上で、文章全体の流れや、筆者が言おうとしていることを的確に把握するなどの読解力を主に養っていきます。英Wも同様に今まで学習した基礎・基本を踏まえた上で、自分自身が書きたい英文が正確に書けるような作文力を養います。したがって、授業前にあらかじめ決められた範囲でしっかり予習(実際自分で自分なりの答えを作成する)することが極めて重要です。

【第3学年】学習到達目標

①話すこと		②書くこと		③聞くこと		④読むこと	
学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価
<ul style="list-style-type: none"> 興味・関心のあるトピックに関して具体的な理由を示しながら説得力をもって、賛成や反対の意見を述べることができる。 様々なトピックに関して、他者の意見を聞き、自分の意見を正確に表明し、円滑に会話を進めることができる。 	コミュⅢ 英表Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> 様々なトピックについて書かれた英文を読み、また話された英文を聞いて、その概要を書くことができる。 自分の意見を具体的な事例や理由を添えて論理の明確な複数の段落からなる英文で、時間をかけた修正を経て書くことができる。 	英表Ⅱ ・エッセーライティング ・定期考査 (学)イングリッシュプラクティス	<ul style="list-style-type: none"> 興味・関心のある分野で自然な速さで話されるニュースを聞き、映像をヒントに事実関係を把握することができる。 自然な速さで標準的な発音で話されるテレビ番組や映画の母語話者どうしの会話の流れについていくことができる。 	英表Ⅱ (Reading) ・リスニングテスト ・定期考査 (学)イングリッシュプラクティス	<ul style="list-style-type: none"> 小説や自叙伝、伝記などを辞書に頼りすぎることなく、一定の速度で読み続け、全体の概要を把握することができる。 海外の新聞記事やレポートなどを一読して、その内容の重要度を判断し、必要に応じて読む速度や読み方を変えて、正確に読むことができる。 	コミュⅢ ・リーディングテスト ・定期考査 英表Ⅱ ・定期考査 (学)イングリッシュプラクティス

【年間指導計画】

学期	単元(配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習活動	単元の評価基準	評価方法
後期(英R)	Ch7(2~3時間)	検索エンジンと記憶	長期記憶に蓄積された事実の文脈の必要性を理解できたか	<ul style="list-style-type: none"> リスニング演習(第4問) 本文の読み(精読、音読) 単語の小テスト 	③④	③④定期考査
	Ch8(2~3時間)	オンカロ	放射線処分場にかかわる問題を理解できたか	<ul style="list-style-type: none"> リスニング演習(第4問) 本文の読み(精読、音読) 単語の小テスト 	③④	③④定期考査
	Ch9(2~3時間)	U字曲線	U字曲線の働きを理解できたか	<ul style="list-style-type: none"> リスニング演習(第4問) 本文の読み(精読、音読) 単語の小テスト 	③④	③④定期考査
	Ch10(2~3時間)	17世紀のSNS	コーヒーハウスの役割、影響を読み取ることができたか	<ul style="list-style-type: none"> リスニング演習(第4問) 本文の読み(精読、音読) 単語の小テスト 	③④	③④定期考査
	Ch11(2~3時間)	利他主義と利己主義	利他主義・利己主義それぞれの利点を読み取れたか	<ul style="list-style-type: none"> リスニング演習(第4問) 本文の読み(精読、音読) 単語の小テスト 	③④	③④定期考査
後期(英W)	基礎英文問題精講 L11~L15 (5時間)	比較、否定、特殊構文、語法、会話表現	英作文をする上で基礎・基本になる項目を問題演習形式で確認するとともに、比較的簡単な英作文問題を使用して、応用力の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 問題演習 ペアワーク(復習、暗唱例文練習、解答検討) 	②④	②④定期考査
	精選英作文300題 L12~L16 (5時間)	否定・仮定法・名詞節・副詞節(時・条件・理由・程度・目的・結果)・総合	英作文をする上で基礎・基本になる項目を問題演習形式で確認するとともに、比較的簡単な英作文問題を使用して、応用力の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 問題演習 ペアワーク(復習、暗唱例文練習、解答検討) 	②④	②④定期考査
	第4問A+B徹底演習 1A~5B (5時間)	あるトピックに関するまとまった話や長めの会話	トピックの内容や会話の流れを把握するために、英語の音声に慣れ、また、よく使用される表現を理解することを旨とする。	<ul style="list-style-type: none"> 演習問題を解き、聞き取りのできていない部分の認識及び確認を図る。 	③	③定期考査

【学習評価(評価の観点と実施方法)】

観 点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識理解
実 施 方 法	授業態度、ペアワーク	定期考査、ペアワーク	定期考査、発表	定期考査、小テスト
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。評価点の割合は、考査点90%程度、平常点10%程度です。				

平成30年度 外国語・英語

教科	英語	科目	英語理解	単位数	前期2 後期3	年次	3年次
校内名称	英R(前期)/英R,英W(後期)			ユニット	前期2.5 後期4.5	必選別	必
使用教科書	Unicorn English Communication III (文英堂) Cutting Edge 3(エミル出版)、精選・英作文300選(日栄社)						
副教材等	Cutting Edge 3(エミル出版) システム英単語(駿台文庫) センター英語読解トレーニング(エミル出版) 基礎・英文向題精講(旺文社) 精選・英作文300題(日栄社) 英文法・英作文演習 3訂版(日栄社) POWER STAGE(桐原書店) センターリスニング分野別10 min.(エミル出版)						

1. 担当者からのメッセージ

正確で早い英文読解のためには、これまで教科書、シス単、Power Stage、その他の教材で学習してきた語彙、文法を確実にするため、繰り返して学習することが大事です。授業の予習や模試などで初見の文章を読むときには、まず概要・大意をつかみ、それから精読に移りましょう。復習の際には、辞書・参考書を使って単語・文法などを確認し定着させることをおろそかにしないようにしてください。また、英文自体が高度な内容になりますので、日頃から様々な話題に関心をもち、触れておくことが望ましいです。

【第3学年】学習到達目標

①話すこと		②書くこと		③聞くこと		④読むこと	
学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価
<ul style="list-style-type: none"> 興味・関心のあるトピックに関して具体的な理由を示しながら説得力をもって、賛成や反対の意見を述べることができる。 様々なトピックに関して、他者の意見を聞き、自分の意見を正確に表明し、円滑に会話を進めることができる。 	英理 異理	<ul style="list-style-type: none"> 様々なトピックについて書かれた英文を読み、また話された英文を聞いて、その概要を書くことができる。 自分の意見を具体的な事例や理由を添えて論理の明確な複数の段落からなる英文で、時間をかけた修正を経て書くことができる。 	異理 ・エッセーライティング ・定期考査	<ul style="list-style-type: none"> 興味・関心のある分野で自然な速さで話されるニュースを聞き、映像をヒントに事実関係を把握することができる。 自然な速さで標準的な発音で話されるテレビ番組や映画の母語話者どうしの会話の流れについていくことができる。 	異理 (Reading) ・リスニングテスト ・定期考査	<ul style="list-style-type: none"> 小説や自叙伝、伝記などを辞書に頼りすぎることなく、一定の速度で読み続け、全体の概要を把握することができる。 海外の新聞記事やレポートなどを一読して、その内容の重要度を判断し、必要に応じて読む速度や読み方を変えて、正確に読むことができる。 	英理 リーディングテスト ・定期考査 異理 ・定期考査

【年間指導計画】

学期	単元(配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習活動	単元の評価基準	評価方法
前期 (英R)	Unicorn III L11(2~3時間)	A Paradise Built in Hell	リーディングスキルとして、何を対比して述べているのか整理する。	・速読演習(Reading Gym) ・本文の読み(精読、音読) ・単語の小テスト	①④	①④定期考査
	L12	What We're Learning from Online Education	オンライン教育から何を学べるか理解できたか	・速読演習(Reading Gym) ・本文の読み(精読、音読) ・単語の小テスト	①④	①④定期考査
	Cutting Edge Ch1(2~3時間)	絶滅種とDNA	絶滅動物の復活とゲノム配列の復元について理解できたか	・速読演習(Reading Gym) ・本文の読み(精読、音読) ・単語の小テスト	①④	①④定期考査
	Ch2(2~3時間)	言語の変化	英単語の意味の変化を読み取れたか	・速読演習(Reading Gym) ・本文の読み(精読、音読) ・単語の小テスト	①④	①④定期考査
	Ch3(2~3時間)	視覚	マイクの事例から、視覚と脳の関係について理解できたか	・速読演習(Reading Gym) ・本文の読み(精読、音読) ・単語の小テスト	①④	①④定期考査
	Ch4(2~3時間)	米国の格差	米国の機会の不平等とその回復の難しさについて理解できたか	・速読演習(Reading Gym) ・本文の読み(精読、音読) ・単語の小テスト	①④	①④定期考査
	Ch5(2~3時間)	温暖化の証明	地球温暖化の判断に用いられたデータとその考察について理解できたか	・速読演習(Reading Gym) ・本文の読み(精読、音読) ・単語の小テスト	①④	①④定期考査
後期 (英R)	Ch6(2~3時間)	幸福な惑星	地球のおかれた状況を理解できたか	・速読演習(Reading Gym) ・本文の読み(精読、音読) ・単語の小テスト	①④	①④定期考査
	Ch7(2~3時間)	検索エンジンと記憶	長期記憶に蓄積された事実の文脈の必要性を理解できたか	・速読演習(Reading Gym) ・本文の読み(精読、音読) ・単語の小テスト	①④	①④定期考査
	Ch8(2~3時間)	オンカロ	放射線処分場にかかわる問題を理解できたか	・速読演習(Reading Gym) ・本文の読み(精読、音読) ・単語の小テスト	①④	①④定期考査
	Ch9(2~3時間)	U字曲線	U字曲線の働きを理解できたか	・リスニング演習(第4問) ・本文の読み(精読、音読) ・単語の小テスト	③④	③④定期考査
	Ch10(2~3時間)	17世紀のSNS	コーヒーハウスの役割、影響を読み取ることができたか	・リスニング演習(第4問) ・本文の読み(精読、音読) ・単語の小テスト	③④	③④定期考査
	Ch11(2~3時間)	利他主義と利己主義	利他主義・利己主義それぞれの利点を読み取れたか	・リスニング演習(第4問) ・本文の読み(精読、音読) ・単語の小テスト	③④	③④定期考査
	Ch12(2~3時間)	化学と物語	事象に物語をつけることの長所と短所について理解できたか	・リスニング演習(第4問) ・本文の読み(精読、音読) ・単語の小テスト	③④	③④定期考査
後期 (英W)	Ch13(2~3時間)	社会的評価	社会的評価が引き起こす不安について理解できたか	・リスニング演習(第4問) ・本文の読み(精読、音読) ・単語の小テスト	③④	③④定期考査
	基礎英文問題精講 L11~L15(5時間)	比較、否定、特殊構文、語法、会話表現	英作文をする上で基礎・基本になる項目を問題演習形式で確認するとともに、比較的簡単な英作文問題を使用して、応用力の定着を図る。	・問題演習 ・ペーパーワーク(復習、暗唱例文練習、解答検討)	②④	②④定期考査
	精選英作文300題 L12~L16(5時間)	否定・仮定法・名詞節・副詞節(時・条件・理由・程度・目的・結果)・総合	英作文をする上で基礎・基本になる項目を問題演習形式で確認するとともに、比較的簡単な英作文問題を使用して、応用力の定着を図る。	・問題演習 ・ペーパーワーク(復習、暗唱例文練習、解答検討)	②④	②④定期考査
第4問A+B徹底演習 1A~5B(5時間)	あるトピックに関するまとまった話や長めの会話	トピックの内容や会話の流れを把握するために、英語の音声に慣れ、また、よく使用される表現を理解することを旨とする。	・演習問題を解き、聞き取りのできていない部分の認識及び確認を図る。	③	③定期考査	

【学習評価(評価の観点と実施方法)】

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識理解
実施方法	授業態度・ペーパーワーク	定期考査、ペーパーワーク	定期考査、発表	定期考査、小テスト
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階評定にまとめます。評価点の割合は、考查点90%程度、平常点10%程度です。				

平成31年度 外国語・英語

教科	英語	科目	時事英語	単位数	前期1 後期1	年次	3年次
校内名称	英語C			ユニット	1.5	必選別	選
使用教科書	OVER ALL 英語総合問題集 5						
副教材等							

1. 担当者からのメッセージ

本文の内容は多岐に渡っており、さまざまな分野の知識、語彙を身につける機会となる。新出語彙は折にふれ復習し、音読、黙読、Dictationで語彙、文法だけでなく、話の流れ等も追いつながら復習すること。

【第3学年】学習到達目標

①話すこと		②書くこと		③聞くこと		④読むこと	
学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価
<ul style="list-style-type: none"> 興味・関心のあるトピックに関して具体的な理由を示しながら説得力をもって、賛成や反対の意見を述べるができる。 様々なトピックに関して、他者の意見を聞き、自分の意見を正確に表明し、円滑に会話を進めることができる。 	英理 英理	<ul style="list-style-type: none"> 様々なトピックについて書かれた英文を読み、また話された英文を聞いて、その概要を書くことができる。 自分の意見を具体的な事例や理由を添えて論理の明確な複数の段落からなる英文で、時間をかけた修正を経て書くことができる。 	英理 ・エッセーライティング ・定期考査	<ul style="list-style-type: none"> 興味・関心のある分野で自然な速さで話されるニュースを聞き、映像をヒントに事実関係を把握することができる。 自然な速さで標準的な発音で話されるテレビ番組や映画の母語話者どうしの会話の流れについていくことができる。 	英理 ・リスニングテスト ・定期考査	<ul style="list-style-type: none"> 小説や自叙伝、伝記などを辞書に頼りすぎることなく、一定の速度で読み続け、全体の概要を把握することができる。 海外の新聞記事やレポートなどを一読して、その内容の重要度を判断し、必要に応じて読む速度や読み方を変えて、正確に読むことができる。 	英理 ・リーディングテスト ・定期考査 英理 ・定期考査

【年間指導計画】

学期	単元(配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習活動	単元の評価基準	評価方法
前 期	L1(2~3時間)	脳の機能の仕方	ニューロン、運動の働きを理解する。	Readingの活動、Writingの活動、テキストのDictation	②③④	②③④定期考査
	L2(2~3時間)	携帯電話の発達による弊害	携帯電話の影響を理解する。	Readingの活動、Writingの活動、テキストのDictation	②③④	②③④定期考査
	L3(2~3時間)	ペットは飼い主の心を読めるか?	ペットの状況とそれに関わる調査を理解する。	Readingの活動、Writingの活動、テキストのDictation	②③④	②③④定期考査
	L4(2~3時間)	怒りの受け取られ方による違い	文化の違いによる怒りの違いを理解する。	Readingの活動、Writingの活動、テキストのDictation	②③④	②③④定期考査
	L5(2~3時間)	幸せな老後について	ストレスを減らし、老化を緩和する人間関係を理解する。	Readingの活動、Writingの活動、テキストのDictation	②③④	②③④定期考査
	L6(2~3時間)	人間は環境とどう関わるべきか	人間が積極的に自然を回復させる試みを理解する。	Readingの活動、Writingの活動、テキストのDictation	②③④	②③④定期考査
	L7(2~3時間)	状況や相手によって話し方を変えることについて	相手によってその話し方を理解させる要因を理解する。	Readingの活動、Writingの活動、テキストのDictation	②③④	②③④定期考査
後 期	L8(2~3時間)	企業の社会的責任について	企業の社会的責任は種類ごとに変わってくることを理解する。	Readingの活動、Writingの活動、テキストのDictation	②③④	②③④定期考査
	L9(2~3時間)	歴史家にとっての歴史とは	筆者の歴史に対する見方を理解する。	Readingの活動、Writingの活動、テキストのDictation	②③④	②③④定期考査
	L10(2~3時間)	宇宙飛行士にとっての食べ物の重要性	宇宙飛行士にとっての宇宙での食べ物に関わる問題を理解する。	Readingの活動、Writingの活動、テキストのDictation	②③④	②③④定期考査
	L11(2~3時間)	科学的手法の5つのステップ	科学的手法の5つのステップとその役割を理解する。	Readingの活動、Writingの活動、テキストのDictation	②③④	②③④定期考査
	L12(2~3時間)	子供の生まれつきの気質について	子供の基本的な気質特性とそれに関連した情報を理解する。	Readingの活動、Writingの活動、テキストのDictation	②③④	②③④定期考査
	L13(2~3時間)	思春期の思考の変化について	動植物の調和的行動や体内の細胞のこうした調和的な動きを理解する。	Readingの活動、Writingの活動、テキストのDictation	②③④	②③④定期考査

評価点の割合は考査点90%程度、平常点10%程度で、学期末に5段階の評定にまとめます。

学習評価(観点・実施方法)

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識理解
実施方法	ペアワーク等のコミュニケーション活動で評価	writing活動のテストで評価。	定期テストでのリスニング並びにリーディングで評価。授業時の発問に対する内容並びに定期テストで評価。	

上記の観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価、学年末に5段階評定で評価。内容に応じて、上記各観点は、適度に配分し評価。

平成31年度 外国語・英語

教科	英語	科目	(学)英語演習	単位数	前期1 後期1	年次	3年次
校内名称	英語D			ユニット	1.5	必選別	選
使用教科書	Play On リスニング徹底演習 入試編2(数研出版)						
副教材等	プリント等						

1. 担当者からのメッセージ

スピーキング、リスニングを中心に「英語を使う」ことを目指した活動を行う。スピーキング活動では間違えを恐れて発話を控えるより、まず自分の言いたいことを発話し、コミュニケーションをとることが大事になってくる。積極的な発言、授業参加が求められる。リスニングは実際の入試問題の高いレベルの英文に挑戦する。

【第3学年】学習到達目標

①話すこと		②書くこと		③聞くこと		④読むこと	
学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価
<ul style="list-style-type: none"> 興味・関心のあるトピックに関して具体的な理由を示しながら説得力をもって、賛成や反対の意見を述べることができる。 様々なトピックに関して、他者の意見を聞き、自分の意見を正確に表明し、円滑に会話を進めることができる。 	コミュⅢ 英表Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> 様々なトピックについて書かれた英文を読み、また話された英文を聞いて、その概要を書くことができる。 自分の意見を具体的な事例や理由を添えて論理の明確な複数の段落からなる英文で、時間をかけた修正を経て書くことができる。 	英表Ⅱ ・エッセーライティング ・定期考査 (学)イングリッシュプラクティス	<ul style="list-style-type: none"> 興味・関心のある分野で自然な速さで話されるニュースを聞き、映像をヒントに事実関係を把握することができる。 自然な速さで標準的な発音で話されるテレビ番組や映画の母語話者どうしの会話の流れについていくことができる。 	英表Ⅱ (Reading) ・リスニングテスト ・定期考査 (学)イングリッシュプラクティス	<ul style="list-style-type: none"> 小説や自叙伝、伝記などを辞書に頼りすぎることなく、一定の速度で読み続け、全体の概要を把握することができる。 海外の新聞記事やレポートなどを一読して、その内容の重要性を判断し、必要に応じて読む速度や読み方を変えて、正確に読むことができる。 	コミュⅢ ・リーディングテスト ・定期考査 英表Ⅱ ・定期考査 (学)イングリッシュプラクティス

【年間指導計画】

学期	単元(配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習活動	単元の評価基準	評価方法
前中期	Unit1~7 (10時間)	実用英語(4技能):演習・活動	情報を整理し、個人の経験、意見、感情、個人の事情、主張、実験を聞き取る。ショートスピーチ、プレゼンテーションなどみなに対して発表活動ができる。英語の4技能を磨く。	ポイント聞き取り、単語の聞き取り、Dictation、意見を言ったり書いたり、コミュニケーション活動、発表活動	①②③④	①②③④定期考査、小テスト(発表活動を含む)、提出物
前期末	L8~14(10時間)	実用英語(4技能):演習・活動	過去と現在の対比、比較したもののより点、悪い点、主張、反論。レポートの書き方。	ポイント聞き取り、単語の聞き取り、Dictation、意見を言ったり書いたり、コミュニケーション活動、Book Report	①②③④	①②③④定期考査、小テスト(発表活動を含む)、提出物
後期	L15~L20(13時間)	Listening演習・長文演習	講義の聞き取り、研究レポートの聞き取り、原因と影響を含む文の聞き取りができる。資料の内容を踏まえた発話ができる。4技能統合TOEFL活動。	Reading・Writing・Listeningの活動、資料の読解。	①②③④	①②③④定期考査、小テスト(発表活動を含む)、提出物

学習評価(観点・実施方法)

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識理解
実施方法	ペアワーク/グループワーク、発表などのコミュニケーション活動で評価	エッセーライティングの課題や考査、およびペアワークやグループワーク、発表などの内容で評価。	リスニング(音声教材、教員の説明など)やリーディング教材の理解の度合いを日常の活動や考査で評価、	授業時の発問に対する内容並びに定期テストで評価
上記の観点に基づいて、評価点の割合は考査点80%程度、平常点20%程度で、学期末に5段階の評定にまとめる。				

平成31年度 サイエンス探究(文系)

教科	S S 理数	科目	(学) サイエンス探究	単位数	1 単位	年次	2 年後期 3 年前期
校内名称	ソーシャルサイエンス探究 (文系 S 探)			ユニット数	1. 5	必選別	必修
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

<p>【人が生み出したこと、全てを探究してみよう】</p> <p>「学問」が確立したギリシア世界では、「この世の物質は何からできているか」を見極めることから探究が始まりましたが、そのような「ピュシス(自然)」に対し、人間の手で作られた道徳や法律などの「ノモス(人為)」も理論的に探究する対象となり、それらの探究を通して、人知を超えた世界や宇宙の秩序に想いを馳せるテオリア(観想)こそ、最高の人間生活だとされました。</p> <p>現代の社会でも、科学(サイエンス)は自然科学のみではありません。ギリシア人も気付いていたように、社会科学・人文科学も理論的な科学です。教科学習、毎日の生活、文化やスポーツ活動、あるいは世界に関する報道などから、疑問を見つけ出してください。ものごとの成り立ちや、社会・自然への影響を考え、他の文化との比較をし、またその上での新たな創作ができるかもしれません。</p> <p>独自の方法・理論で立ち向かい、地理的・物理的に捉えた言葉としての「世界・宇宙」を超えた、文化的・社会的な「世界・宇宙」を切り開いてください。</p>

2 学習の到達目標

<p>2 年後期から 3 年前期の 1 年間をかけて各自の設定した課題に基づいて研究を行う。</p> <p>文理学科の取り組みの中では、これまでに得た知識・技能を十二分に活かし、発表のための総まとめという位置づけになっている。調査・分析・対話・説明の手法を身につけつつ、特に論理的解決能力の育成に重点を置いて、体系的な発表ができる研究能力の養成をめざす。1 年間の受講を通して、自主性および独創性を高め、「探究するところ」を持ちあわせた生徒を育成する。</p>
--

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 資料活用の技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	人文・社会現象に関心や探究心を持ち、答えの用意されていない問いに挑む意欲を有している。	自ら研究テーマを定め、問いとなるリサーチクエスチョンを立てた上で、調査・研究計画を策定して、探究活動を論理的に進めている。	情報収集手法を習得し、必要な情報・データを的確に獲得することができる。(文献・Web・フィールドワーク等を通じて)	文献やWeb等を通じた情報収集により、研究テーマに関連する諸情報を体系的に把握し、自らの研究課題の位置づけが理解できている。
評 価 方 法	①授業への参加度 (「研究計画」「読書課題」の内容) ②フィールドワークや校外諸機関へのアプローチ内容	①中間・最終発表会 「予稿集」「ポスター」「プレゼンテーション」 「説明・質疑応答」 ②「研究報告書」	①中間・最終発表会 「予稿集」「ポスター」「プレゼンテーション」 「説明・質疑応答」 ②「研究報告書」	①中間・最終発表会 「予稿集」「ポスター」「プレゼンテーション」 「説明・質疑応答」 ②「研究報告書」
<p>・上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。</p>				

平成31年度 サイエンス探究（理系）

教科	SS理数	科目	(学)サイエンス探究	単位数	1単位	年次	3年次
校内名称	サイエンス探究（理系S探）			ユニット数	前期1.5u	必選別	必修
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

サイエンス探究（理系S探）の対象は、物質、生命、宇宙などの自然界、自然界にはないものを作り出す「ものづくり」、そして、数、式、図形をはじめとする数学の世界など、多岐にわたっています。解き明かしたいこと、実現したいこと、挑戦したいことに、みなさん自身の手で、研究あるいは開発してみる授業が、サイエンス探究です。この授業は研究テーマを見つけることが研究を進めるうえで重要な要素となります。研究テーマは、みなさんの興味・関心次第で、自由に設定することができます。ただし、すぐに結果がわかることや、設備上不可能なこと、安全上の問題がある場合については、研究テーマにはなりません。まずは、身の周りの世界や未知なる世界を見つめて、1年間かけて取り組んでみたいことを見つけてみましょう。研究を進めていくうえで、苦勞することも多々あると思いますが、研究を通して得られる喜びも大きいと思いますので、ぜひ意欲的に取り組んでみてください。

2 学習の到達目標

「サイエンス探究」は、「まこと」で培った情報収集力、情報分析力、文章表現力、プレゼンテーション力、「のぞみ」で培った論理的に分析・判断・検証する力、論理的表現力を十二分に活かして、研究活動を進めていきます。研究活動を通して、知的好奇心、科学的に探究する力、論理的に問題を解決する力など、科学する「ところ」と「ちから」を高めていくことを目標とします。さらには、高校生国際科学会議や海外研修における研究発表などの機会を活かし、研究成果を世界に向けて積極的に情報発信することにも挑戦していきます。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
観点の趣旨	物理、化学、生物、地学及び数学の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身につけている。	物理、化学、生物、地学及び数学の事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物理、化学、生物、地学及び数学の事物・現象を科学的に探究する技能、情報を収集し分析する技能、研究結果をまとめ、発表する技能を身につけている。	物理、化学、生物、地学及び数学の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけているとともに、研究活動において、知識・理解を正しく活用できている。
評価方法	研究の最終目標の設定 研究の進め方と工夫 結果のまとめと考察 結論の提示 発表用スライド 最終発表会の発表と 質疑応答 研究報告書	研究の最終目標の設定 研究の進め方と工夫 結果のまとめと考察 結論の提示 発表用スライド 最終発表会の発表と 質疑応答 研究報告書	研究の最終目標の設定 研究の進め方と工夫 結果のまとめと考察 結論の提示 発表用スライド 最終発表会の発表と 質疑応答 研究報告書	研究の最終目標の設定 研究の進め方と工夫 結果のまとめと考察 結論の提示 発表用スライド 最終発表会の発表と 質疑応答 研究報告書
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。				

4 学習の活動

期間	単元	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期 中間 考査まで	研究活動と結果のまとめ	研究の最終目標の設定	○	○	○	○	a, b, c, d : 第2学年の研究結果と課題が整理され、第3学年における研究の最終目標が設定されている。	研究活動 研究ノート
		研究方法の見直し・再確立	○	○	○	○	研究の最終目標に向かって、研究方法の見直しが行われ、目標に応じた研究方法が確立できている。	調査活動 研究ノート
		研究結果のまとめ	○	○	○	○	研究結果について、適切に分析・評価され、整理されている。	研究活動 研究ノート
前期 期末 考査まで	最終発表と研究報告書作成	結果の考察・結論の提示	○	○	○	○	a, b, c, d : 資料、データ、計算結果等が、適切に分析・評価・解釈され、論理的に妥当な結論が導き出されている。	研究ノート スライド
		最終発表会の実施	○	○	○	○	論理的で熱意のある発表であり、聞く者の理解への配慮がなされ、質問の趣旨を理解して応答している。	スライド プレゼン 質疑応答
		研究報告書の作成	○	○	○	○	研究の目的、方法、結果、考察、結論について、論理的に明快な文章で表現され、表、グラフ、図、写真、参考文献、キーワードが適切に配置・掲載されている。	研究活動 研究ノート 研究報告書

※ 表中の観点について a : 関心・意欲・態度 b : 思考・判断・表現 c : 技能 d : 知識・理解